

損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スル者ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼スルコトヲ得ス

第十章 雜 則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附 則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉

スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各々其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計規則

明治二十二年四月三十日 勅令第六十號

第一章 會計年度所屬區分、歲入歲出金出納

第一條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 臨時ノ收入ニシテ納期告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分ス

ヘシ

第五 前各項ニ掲グル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定

ムヘシ

第三條 毎年度所屬歲入歲出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス(明治二十六年勅令第百十二號ヲ改正)

第二章 豫 算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入歲出總豫算ヲ調製スヘシ
總豫算ノ首ニハ歲計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ
 第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ
 第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較テ立テ歳定經費要求書ヲ調製シ八月三十一日マテニ大藏大臣ニ送付スヘシ^(上同)

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ
 目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各省各項ノ説明ヲ付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ^(上同)

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ^(上同)

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケクルキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ^(上同)

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ

調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ七月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ^(上同)

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ附シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入ヲ徵收スル官吏ニ報告スヘシ(明治三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第二十六條 收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ

該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ(明治二十六年勅令第百十二號及同上ヲ以テ本條改正)

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入ヲ徵收スル官吏ニ通知スヘシ(同上改正)

第二十八條 (明治二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除)

第二十九條 (同上)

第三十條 歲入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニ據リ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ(明治三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第三十一條 歲入ノ事務管理廳ハ前條ノ徵收報告書ニ據リ毎月徵收總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ(同上)

第三十二條 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知書ヲ發セサルモノハ總テ納額告知書ヲ發シタル年度ノ歲入ニ編入スヘシ(同上本條追加)

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金

額氏名表ヲ添ユルコトヲ得(明治二十六年勅令第百二十二號ヲ以テ改正)

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科目、年度又番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘシ

但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ(同上及同三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第三十六條 仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ(明治二十六年勅令第百二十二號ヲ以テ改正)

第三十七條 (同上)

第三十八條 (同上)

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限りハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超エサルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後五箇年内ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年六月三十日限リトス

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ヲ受ケタルトキハ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲

スヘシ(同上追加同三十三年勅令
第百二十七號ヲ以テ改正)

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替
ニテ現金ヲ交付スヘシ但集合仕拂命令、金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ニ對
シテハ領收證書ト取替ニ交付スヘシ(明治三十三年勅令第百二
十七號ヲ以テ但書追加)

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘ
シ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度七月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額
ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ(明治二十六年
勅令第百十二
號ヲ以
テ改正)

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免
除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除
トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ
但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キ者ハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受ク

第三款 計算報告

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ
但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キ者ハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受ク

第五十條(同上)

第五十條(同上)

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其
第二款 各省決算報告書及收入支出計算書(同上)

省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

歳入ヲ徴收スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添
テ年度經過後五箇月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付
スヘシ(同上追加同三十三年勅令
第百二十七號ヲ以テ改正)

仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マ
テニ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(明治二十六年勅令第
百十二號ヲ以テ追加)

本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主
管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得(同上)

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ケル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ（同上及同三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正）

本條繰越計算ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ既ニ仕拂命令濟トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第四款 同上

第五十八條 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十九條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サシトスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣工遅延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣工遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第六十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十一條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ（明治二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正）

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セシトスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其

經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 仕拂命令會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サシトスルトキハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ（同上）

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ（同上）

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス（同上）

第六十六條 (同上)

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總 則

第六十七條 各省大臣五百圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又ハ技術者ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ (同上)

契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルニキハ各省大臣ハ特ニ檢査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前各項ノ調書ニ據ルニアサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス (同上)

第六十八條 前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス (同上)

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ決定ムルコトヲ得 (同上)

工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムルコトヲ得 (同上)

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第十一條 競争ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス (上)

第十二條 競争ハ總テ入札ノ法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少クモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルベク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノ下キ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中ニモ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セサル下キハ直ノ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再

再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ但本條

ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得(全上改正)
(但書追加)

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落

成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ

載擧ケトシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサ

レハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意

契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得(全上但書改正)

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免

除ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキハ其代理官若

クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラズ(全上但書改正)

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部分ヲ掌スルモノトス(全上追加)

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其所爲ニ付會計法第二十六條ノ

責任ヲ免ルコトヲ得ス(全上改正)

第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク(全上)

第八十七條 (全上)

第八十八條 各省大臣ハ所属出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ

會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信

ズルトキハ計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ

求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セズ

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直

ニ之ヲ還付ス

第九十條 (全上)

第九十一條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉

免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官

吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ收入官吏及現金前渡ヲ受ケ

タル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ(明治三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ本條改正)

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本省大臣ノ命シタル官吏ニテ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其検査書二通ヲ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ(全上)

第九十四條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ(全上)

第九十五條 (全上)
第九十六條 (全上)

第九十七條 收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ヲ徴收スル官吏ニ送付シ歳入ヲ徴收スル官吏ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(全上)
在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證憑書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ

行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十八條ノ二 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計算書ハ各別ニ提出ヲ要セス但各省大臣若クハ會計検査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏ヲシテ報告書又ハ計算ヲ提出セシムルコトアルヘシ(明治二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ本條追加)

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ出歳官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出後修正變更スルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保証金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保証人トナスルハ各省大臣前項ノ身元保証金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保証人ノ住所氏名職業ヲ會計検査院ニ通知スヘシ但保証人ノ責任ハ免除シタル保証金額ニ止ルモノトス(全上改正及全三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ但書追加)

第一百三條 身元保証金ハ現金ヲ以テ認ムヘシ但公債証書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第一百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ各務大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ(明治二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第一百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ(上全)

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セサレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第一百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏ヨリ徴收スヘシ(明治三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第一百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第一百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テテレタルカ爲メ其身元保證金額定期ノ高ヨリ減期ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第一百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ

生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定期ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第一百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第一百一十條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(明治二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ(同上)

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調製シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(上全)

第九章 帳簿

第一百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第百十四條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ (明治三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ (明治二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第百十七條 (全上) 削除

第百十八條 收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ (明治三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜 則

第百二十條 本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ証明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ (明治二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸計算書仕拂命令領收証ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス
本規則ト牴觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス
(備考) 明治三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正ノ條項ハ明治三十三年度ヨリ施行

○官立學校及圖書館會計法 明治二十三年三月二十七日 法律 第二十六號

第一條 文部省直轄學校及圖書館並農商務省所管東京農林學校ハ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄附金及其他ノ收入ヲ以テ其歳出ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 學校及圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄附シタル動産不動産及歳入殘餘ヨリ成ルモノトス

第三條 教員事務員ノ俸給諸給旅費器具器械圖書標本費授業費試驗費生徒ニ關スル諸費事務所費營繕費雜支其他寄附者ノ指定シタル用途ヲ以テ學校及圖書館ノ歳出トス

第四條 學校及圖書館ノ寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其約束ニ從ヒ之ヲ使用シ其會計ハ別ニ之ヲ整理スヘシ

第五條 政府ハ毎年各學校及圖書館ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 學校及圖書館ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ後會計年度ヨリ施行ス

○官立學校及圖書館會計規則

明治二十三年三月二十七日
勅令第五十三號

第一章 資金

第一條 資金ヲ分テ左ノ二種トス

第一 維持資金

第二 特別資金

維持資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ學校一般ノ經費ニ充ツルモノトス
特別資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス

第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但特別資金ニ限リ用途指定者ノ同意ヲ以テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第四條 資金ニ屬スル現金ハ總テ預金局ニ寄托スヘシ

第五條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證書其他ノ証券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産公債證書其他ノ証券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證書其他ノ証券ニ換ヘントスルトキハ所轄大臣ハ

大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但寄附ニ係ル不動産ハ寄附者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ離權スルコトヲ得ス

第六條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歲入歲出トシテ之ヲ整理スヘシ

第二章 歲入歲出

第七條 左ノ諸收入ヲ以テ學校ノ經常歲入トス

第一 政府ノ支出金

第二 授業料及試験料

第三 寄附金

第四 公債証書及諸証券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 實驗用生産品賣拂代

第七 雜收入

第八條 左ノ諸費ヲ以テ學校ノ經常歲出トス

第一 教員事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 學術用器具器械圖書及標本費

第三 授業費及試験費

第四 獎學費

第五 生徒費

第六 事務所費

第七 營繕費

第八 雜支出

第九條 左ノ諸收入ヲ以テ圖書館ノ經常歲入トス

第一 政府ノ支出金

第二 書籍借覽料

第三 寄附金

第四 公債証書及諸証券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 雜收入

第十條 左ノ諸費ヲ以テ圖書館ノ經常歲出トス

第二 圖書館

第三 閱覽室費

第四 事務所費

第五 營繕費

第六 雜支出

第十一條 經常歲出ハ經常歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ臨時ノ歲出ニ充ツル所ノ財源ハ其都度之ヲ定ム

第三章 豫算決算

第十二條 歲入歲出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調査シ前年度八月三十一日マテニ各省豫定經費要

求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(明治二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ改正)

第十三條 所管大臣ハ其年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ

第十四條 歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣

ニ送付スヘシ

學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ証明ノ爲メ毎年度歲入徵收額計算書ヲ調査シ証

憑書類ヲ添へ年度經過後二箇月以内ニ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計検査

院ニ送付スヘシ(全上追加及同三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ証明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ証憑書類

ヲ添へ翌月十五日マテニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(明治二十六年勅令第二

百二十六號ヲ以テ追加)

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付

スルコトヲ得(同上)

第十五條 歲入歲出ノ豫定計算書及決定計算書ハ款項ニ區分シ更ニ各目ニ分チ成ルヘク歲入ノ性

質歲出ノ用途ヲ明示スヘシ(明治三十年勅令第二百九十三號ヲ以テ改正)

第十六條 (同上)

第四章 收入支出

第十七條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ

所管大臣ハ學校若クハ圖書館ノ支部長ヲシテ歳出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ支拂豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ(明治二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ追加)

支拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第二章第三款ノ例ニ依ル(上同)

第十八條 學校及圖書館會計主任ノ官吏ハ收入官吏トシテ會計規則第二十五條第二十六條ノ手續ニ依リ學校又ハ圖書館ノ收入ヲ取扱ヒ學校長圖書館長又ハ其ノ支部長之ヲ監督スヘシ(同上)

第十八條ノ二 學校又ハ圖書館ハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス(同上)

第十九條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ經費ヲ支出スル爲メ支拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ向ヒテ支拂請求書ヲ發スヘシ(同上)

第二十條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラザレ支拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス(上同)

在外國人學術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購置採集若クハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其委託ヲ受ケタル在外國人學術家又ハ學術研究旅行者ヲ受取人トシテ支拂請求書ヲ發シ概算ヲ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得(上同)

學術試験品標本品購入費獎學費生徒費事務所費ニ限リ所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會計主任ノ官吏ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルトキハ之ヲ大藏大臣ニ通知ス

第二十一條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルコトヲ調査シ其金額ヲ算定シ又ハ其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ調査スヘシ(上同)

第二十二條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ歳出豫算明細書ニ定メタル費目ノ彼是流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受クヘシ(上同)

第二十三條 仕拂請求書ニハ受取人ノ氏名(概算渡現金前渡ノ場合ニハ受取人ノ資格トモ)仕拂ヲ要スル金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ集合仕拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

第二十四條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ノ發シタル仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(上同)

第二十五條 各年度ノ歳出ニ届スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌年度四月三十日ヲ限トス

第二十五條ノ二 定額戻入ニ關スル規程ハ第二十五條ノ三ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第六章第三款ノ例ニ依ル(同上)

第二十五條ノ三 各年度ニ届スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日ヲ過クルコトヲ得ス(上同)

第二十六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要ス

ル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ(明治三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(明治二十六年勅令第百二十六號ヲ以テ改正)

第二十八條 歳入ヲ徴收スル官吏ハ其ノ徴收簿ノ結果ニヨリ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(明治三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

第二十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ(明治二十六年勅令第百二十六號ヲ以テ改正)

第五章 年度繰越歳入殘餘

第三十條 毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ債主ノ支出請求ナキカ若クハ事故アリテ翌年度四月三十日マテニ仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日マテニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未済又ハ仕拂未済トシテ翌年度ニ繰越シ計算ヲナスヘシ

第三十一條 工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラザリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第三十二條 所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作り必要ノ参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ(明治三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

第三十三條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三十四條 特ニ用途ヲ指定シタル寄附金ニシテ別途整理ヲ要スルモノ、毎年度内ニ仕拂請求書

ヲ發スルニ至ラザリシ殘額ハ總テ翌年度ニ繰越シ使用スヘシ其仕拂請求書ヲ發シテ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂ヲ終ラザリシモノハ第三十條仕拂未済金整理ノ例ニ依ル但本條ノ支出殘額及仕拂未済金ハ寄附者ノ同意ヲ得テ資金トナスコトヲ得

第三十五條 第三十條ニ依リ繰越シタル支出未済及仕拂未済ノ金額ニシテ會計法第十八條ニ依リ期滿免除トナリタルモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第三十六條 毎年度ノ歳入中仕拂濟額及繰越額ヲ扣除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借
第三十七條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏
第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ依ル(明治二十六年勅令第百二十六號同三十三三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

第八章 帳簿
第三十九條 大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、收入未済額、歳出ノ豫算額、仕拂元受高支出濟額ヲ登記スヘシ(明治二十六年勅令第百二十六號ヲ以テ改正)

第四十條 歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未済額ヲ登記スヘシ(明治三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

第四十一條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額仕拂請求書受領濟額ヲ登記シ又仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ(明治二十六年勅令第百二十六號ヲ以テ改正)

第四十二條 會計主任ノ官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ一切其取扱タル現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第九章 雜 則

第四十三條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(同上)

第四十四條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第四十五條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校會計監理官トシ學校ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第四十六條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス

本規則ト牴觸スル命令ハ總テ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(備考) 明治二十六年勅令第二百二十六號ニテ改正ノ條項ハ明治二十七年一月一日ヨリ同三十三年勅令第二百二十九號ニテ改正ノ條項ハ明治三十三年度ヨリ施行

○教育基金特別會計法

明治三十二年三月二十日 法律第八十號

第一條 教育基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 償金特別會計資金ノ内千萬圓ハ教育基金ニ組入ルヘシ

第三條 教育基金ハ普通教育費ニ使用ス

前項普通教育費ノ使用ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十二年勅令第四百三十號ヲ以テ教育基金令公布)

第四條 教育基金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ拂出スヘシ但シ元資金千萬圓ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第五條 教育基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年教育基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

○教育基金令

明治三十二年十一月二十一日 勅令第四百三十五號

第一條 教育基金元資金ヨリ生スル收入ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ使用ス

第二條 文部大臣ハ教育基金特別會計法第四條ニ依リ一般ノ歲出トシテ毎年度豫算ニ於テ定マリタル金額ヲ前年三月一日現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道廳及府縣ニ配當ス(明治三十四年勅令第五十五號ヲ以テ改正)

第三條 前條ノ配當金ハ沖繩縣ヲ除クノ外府縣ニ下付スヘシ

府縣ハ前項ノ下付金ヲ以テ其ノ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

北海道廳及沖繩縣ノ配當金ハ文部大臣之ヲ管理ス

第四條 教育資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第五條 教育資金ハ第八條ノ場合ヲ除クノ外市町村立尋常小學校ノ校地校舍ヲ設備スル費用ニ充ツル爲市制町村制ヲ施行シタル地方ニ於テハ之ヲ市町村町村組合町村學校組合ニ貸付シ其ノ他ノ地方ニ於テハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス

第六條 貸付金額ハ市町村町村組合町村學校組合ノ申請ニ依リ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ七以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム

貸付金ノ償還期間ハ十箇年以内トシ年賦ヲ以テ之ヲ以テ償還セシムヘシ
貸付金ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附スヘシ

第七條 補助金額ハ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ三以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム
第八條 府縣ハ毎年配當ヲ受ケタル金額十分ノ三以内ヲ限リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ市町村立小學
校教員ノ獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトヲ得

第九條 府縣知事ハ教育資金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
第十條 北海道廳及沖繩縣ノ配當金ノ使用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十一條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 教育基金中本令施行以前ニ生シタル利子額ニ相當スル金額ノ使用方法ハ文部大臣ノ定
ムル所ニ依ル

○北海道廳及沖繩縣ノ教育基金配當金ノ使用ニ關スル規程

明治三十三年二月十六日
文部省訓令第三號

明治三十二年勅令第四百三十五條教育基金令第十條ニ基キ北海道廳及沖繩縣ノ配當金ノ使用ニ關
スル規程左ノ通定メ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

教育基金令第二條ニ依リ北海道廳及沖繩縣ニ配當シタル金額ハ公立尋常小學校ノ校地校舍ノ設備
ニ充ツル爲之ヲ區町村間切島ニ補助ス但配當金ノ一部ヲ以テ公立小學校教員ノ獎勵其ノ他普通教
育ニ關スル費用ニ充ツルコトアルヘシ

○北海道廳及沖繩縣教育基金配當金使用ニ關スル事務取扱及規則

設定方 明治三十三年二月二十日
文部省訓令第二號

北海道廳 沖繩縣

- 一 明治三十二年勅令第四百三十五號教育基金令第三條第三項ノ配當金ノ使用ニ關スル事務ハ其
道廳長官及縣知事之ヲ行フヘシ
- 二 道廳長官及縣知事ハ前項配當金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○北海道廳及沖繩縣普通教育費支出計算書會計検査院へ直送方

明治三十三年六月二日
文部省訓令第七號

北海道廳 沖繩縣

會計規則第五十二條第三項ニ依リ送付スヘキ普通教育費ノ支出計算書ハ其道廳長官及縣知事ヨリ
直ニ會計検査院へ送付スヘシ

○現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ計算書提出方

明治三十三年八月一日
文部省訓令第四號

北海道廳 府縣

會計規則第九十八條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル長官ヨリ差出スヘキ計算書ハ毎月一回トシ其翌月
十日以内ニ仕拂命令官ニ之ヲ差出スヘシ

第十七編 會計

(北海道廳及沖繩縣教育基金配當金使用ニ關スル事務取扱及規則設定方) 一三三三
(北海道廳及沖繩縣普通教育費支出計算書會計検査院へ直送方)
(現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ計算書提出方)

(府縣立師範學校長俸給支出計算書計會検査院へ直送方)
(會計規則第八十四條第九十一條第百條ノ場合ニ於ケル検査員及其他ノ官吏任命方)
(會計文部省所管出納官吏身元保證金納付取扱方)

○府縣立師範學校長俸給支出計算書會計検査院へ直送方

明治三十三年三月二十日
文部省訓令第三号

北海道廳 府縣

會計規則第五十二條第三項ニ依リ送付スヘキ府縣立師範學校長俸給ノ支出計算書ハ地方長官ヨリ直ニ會計検査院ニ送付スヘシ

○會計規則第八十四條第九十一條第百條ノ場合ニ於ケル検査員及其他ノ官吏任命方

明治三十一年八月一日
文部省訓令第五号

北海道廳 府縣

當省主管ノ歳出ニシテ會計規則第八十四條第九十一條及第百條ノ場合ニ於ケル検査員及其他ノ官吏ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命スヘシ

○文部省所管出納官吏身元保證金納付取扱方

明治三十一年八月一日
文部大臣訓令

北海道廳 府縣

當省所管出納官吏身元保證金ノ納付ヲ要スルトキハ所屬長官ニ於テ取扱官廳トシテ明治二十六年九月大藏省令第二十號第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

○歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續

(本文一一三〇頁載録)

○歳出金及歳出仕拂未済繰越金支出月計對照表證明ニ關スル取扱手續

(本文一一三二頁載録)

○學校及圖書館建築修繕工事請負競争加入者ノ資格

明治三十一年二月三日
文部省令第三号

文部省ニ於テ施行スル學校及圖書館ノ建築又ハ修繕工事ノ請負競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條第一項ノ外尚ホ左ノ資格ヲ備フルヲ要ス

一 請負競争ニ加ハラントスル工事ノ見積金額二分ノ一以上ニ相當スル工事ヲ直接ニ請負ヒタル經歷アル者

但地方ノ情況ニ依リ本項見積金額二分ノ一ヲ同五分ノ一マテニ減スルコトアルヘシ

第十八編 雜

○文部省版權所有圖書ノ翻刻出版ニ關スル規定

明治二十七年八月十一日
文部省令第二十二號

文部省版權所有ノ圖書ノ翻刻出版ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

第一條 文部省版權所有ノ圖書ハ其ノ種類ニ依リ明治二十七年十二月十一日以後此ノ省令ノ規定ニ依リ廣ク翻刻出版ヲ許可スヘシ但翻刻出版ヲ許可スヘキ圖書ノ名目ハ官報ヲ以テ公告スヘシ

第二條 翻刻出版ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ其圖書ノ名目及翻刻出版シテ發賣スヘキ定價ヲ具シ

文部大臣ニ願出ヘシ

前項及其ノ他此ノ省令ノ條項ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 翻刻出版ノ圖書ハ紙質脆弱又ハ粗惡ナルヘカラス印刷鮮明ニシテ製本鞏固ナルヲ要ス

第四條 翻刻出版ノ圖書ハ文字ノ大小字體圖書冊數枚數行數及毎行ノ字數ハ原本ト異ナルヘカラ

ス但圖書ノ種類又ハ部分ニ依リ本文ノ制限ニ依ラサラントスルトキハ見本ヲ添ヘテ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 翻刻出版ノ圖書ハ毎冊ニ翻刻出版許可ノ年月日ヲ明記スヘシ

第六條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル者定價ヲ變更セントスルトキハ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 翻刻出版ノ圖書ハ見本三部ヲ文部省ニ差出シ検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ經タル後ニアラ

サレハ發行スルコトヲ得ス改版シタルトキモ亦同シ

第八條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後三箇月ヲ經テ出版セサルトキハ翻刻出版許可ノ效ヲ失フ

第九條 翻刻出版者ニ於テ定價ヲ超エタル價格ヲ以テ其ノ圖書ヲ發賣シ又ハ文部省ノ檢査ヲ經タル見本ト異ナルモノヲ發行シ其ノ他前諸條ノ規定ニ背クトキハ文部大臣ハ何時ニテモ翻刻出版ノ許可ヲ取消スヘシ

第十條 前諸條ニ依ルノ外交部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ翻刻出版者ヲシテ特ニ契約書ヲ差出サシメ相當ノ保証金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十一條 地方長官ハ其ノ管内ニ行ハル、翻刻出版ノ圖書ヲ監視シ若シ此ノ省令ノ規定ニ背クモノアルトキハ文部大臣ニ報告スヘシ

○社寺學校病院等へ寄附ノ土地建物等契約ナキ分一般讓渡ヲ以テ

處分方 明治九年四月十八日 太政官布告五十四号

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

○文部省直轄學校館等へ圖書物品寄附手續並運搬費支給方

明治十六年八月二十八日 文部省告示第一號

從來當省直轄學校圖書教育博物館等へ圖書物品ノ類ヲ寄附候節ハ管轄廳ヲ經由シ來リ候處自今本人ノ便宜ニ依リテハ直ニ其學校館等へ申出ルモ不苦候條此旨告示候事

但寄附品ノ種類ト本人ノ請願ニ依リテハ其寄附ヲ受クヘキ學校館等ヨリ運搬費ヲ支給スルコトアルヘシ

○文部省直轄各部年報一覽等印刷物差出方

明治二十六年二月十六日 文部大臣訓令

年報一覽及諸規則類印刷ノ節差出方ノ義ニ付明治十五年七月十四日附ヲ以テ相達置候處自今所要ノ部數ハ別ニ通達セシムヘキニ付該部數差出スヘシ

○文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程

明治三十二年八月十六日 文部省令第三十九號

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 民法第三十四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、資産ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資産ノ總額ヲ具シ申請書ヲ文部大臣ニ差出スヘシ

第二條 法人ノ設立者及法人ヨリ文部大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ詳查ノ上意見ヲ附シテ進達スヘシ

第三條 法人ハ其ノ設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タルトキハ左ニ掲ケル事項ヲ
遲滞ナク地方長官ニ報告スヘシ其ノ第一號及第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ

一 定款又ハ寄附行爲

二 理事及監事ノ氏名、住所

三 財産目録及社団法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條 法人ハ毎年四月三十日マテニ社団法人ニ在リテハ財産目録及社員ノ員數、財団法人ニ在
リテハ財産目録ヲ地方長官ニ差出スヘシ但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ其ノ年度ノ終ヨリ三十
日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第五條 地方長官ハ法人ノ業務ヲ監督スヘシ

第六條 地方長官ハ法人ヨリ監督上必要ナル報告ヲ徴シ又ハ實地ニ就キ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ

検査スルコトヲ得

第七條 地方長官ハ法人ニ於テ民法第七十一條又ハ民法施行法第二十三條ニ該當スル行爲アリト
認めタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シテ文部大臣ニ報告スヘシ

附 則

第八條 本令施行前設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タル法人ハ本令施行ノ日ヨリ
三十日以内ニ第三條ノ事項ヲ地方長官ニ報告スヘシ

（參照）

民法

第三十四條

祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社団法人ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官
廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人トナスコトヲ得

第三十七條 社団法人設立者ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 資産ニ關スル規定

五 理事ノ任免ニ關スル規定

六 社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定

第三十九條 財團法人ノ設立者ハ其設立ヲ目的トスル寄附行爲ヲ以テ第三十七條第一號乃至第五條ニ掲ケタル事項ヲ
定ムルコトヲ要ス

第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタ
ルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

民法施行法

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社団法人ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之
ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者方定メタル事項ヲ記載シ
タル書面ヲ作り民法施行ノ日ヨリ三箇月内ニ之ヲ主務官廳ニ差出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官
廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十三條 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲
シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

三十三年縣令第二十八号ニテ追加

●愛媛縣令第四十一號 (明治三十一年六月廿二日)

縣立學校基本財産設置及管理規則縣會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

縣立學校基本財産設置及管理規則

第一條 左ノ學校ノ爲メ基本財産ヲ設ク

一 師範學校

二 中學校

三 高等女學校

四 農業學校

前項ノ基本財産ハ各校共通ノモノトス

第二條 基本財産ハ明治三十一年度以後毎年度縣教育費經常歲出剩餘金及使途ヲ指定セサル縣教育費寄附金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第三條 基本財産ヨリ生スル收入ハ該學校經常經費額ノ凡ソ三分ノ二以上ヲ支辨スルニ足ル金額ニ達スル迄ハ之ヲ基本財産ニ編入スルモノトス

第四條 基本財産ハ其收入ヲ以テ該學校ノ經常經費ヲ支辨スルニ足ル金額ニ達シタル時ヲ以テ縣教育費經常歲出剩餘金ヨリ補充ヲ止ム

第五條 基本財産ハ國債証書又ハ確實ナル有價證券ニ換ヘテ之ヲ管理シ其現金ハ銀行ニ預ケ置クモノトス

第六條 基本財産管理方法ハ此規則ニ正條ナキモノハ總テ縣有財産管理規則ニ據ル

●愛媛縣訓令第八十一号 (明治二十三年九月廿日)

附 則

第七條 現在ノ中學校資金ハ此規則實施ノ時ヨリ基本財産ニ編入スルモノトス

第八條 本則第一條ニ新タニ學校ヲ追加シタルトキハ基本財産ハ在來ノ學校ト同シク全部ヲ共用スルモノトス

卅三年縣令第二十八号ニテ追加

●愛媛縣訓令第十七号 (明治三十四年五月九日)

郡 役 所
市 役 所

明治十七年四月 本縣丙第卅四號ヲ以テ學務擔任吏員姓名等毎年六月十二月ノ兩度ニ取調翌月十日限

差出スヘキ旨相達置候處右ハ自今其進退ノ都度開申スヘシ

但シ就職者ハ從前ノ表式ニ依リ記載シ退職者ハ其退職ノ事由ヲ記スヘシ

●愛媛縣訓令第十七号 (明治三十四年五月九日)

郡 役 所
郡 立 學 校

郡立學校職員ニシテ公務ノ爲メ出張ヲ爲シ若ハ私事旅行ノ場合ハ豫メ郡長ノ許可ヲ經ヘク其ノ休暇中ノ旅行又ハ病氣事故ノ爲メ缺勤ヲ爲シ若ハ忌引ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ郡長ニ届出ツヘシ職員ノ公務出張ニシテ其ノ管外ニ係ルモノハ郡長直チニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

(學務擔任吏員姓名等開申方)
(郡立學校職員ニシテ公務ノ爲メ出張ヲ爲シ若ハ私事旅行ヲナス場合ノ手續)

附 錄

○各省官制通則

明治二十六年十月三十一日
勅令第百二十二號

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省官制通則

- 第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信ノ各省ニ適用ス
- 第二條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス
主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム
- 第三條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ
- 第四條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得
- 第五條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得
- 第六條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スヨトヲ得
- 第七條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

下ノ之ヲ專行ス

- 地方官廳委任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之ヲ上奏ス但シ視學官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス(明治二十九年勅令第三百三十七號ヲ以テ但書削除)
(同三十二年勅令第二百五十四號ヲ以テ但書追加)
- 第八條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ敘位敘勳ヲ上奏ス
- 地方官廳官吏ノ敘位敘勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル
- 第九條 各省大臣事故アルトキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外其ノ職務ヲ臨時總務長官ニ代理セシムルコトヲ得(明治三十三年勅令第百六十一號ヲ以テ改正)
- 第十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク
- 大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機密ニ屬スル事項
 - 二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 - 三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
- 各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得
- 陸軍省海軍省ニ於テハ本條第二項第二ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得(同上本條改正)
- 第十一條 各省ニ總務局ヲ置ク
- 總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
 - 二 統計報告ノ調製ニ關スル事項

- 三 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
- 四 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 四 會計ノ監査ニ關スル事項
- 六 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
- 七 其ノ他各省官制ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムル事項
- 陸軍省海軍省ニ於テハ前項第四乃至第六ノ事務ヲ掌ラシムル爲テ二局ヲ置クコトヲ得(上同)
- 第十二條 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム
- 第十三條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム
- 第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク(明治三十一年勅令第二百五十七號ヲ以テ本條中追加同三十三年勅令第六十一號ヲ以テ本條改正)
 - 總務長官
 - 官房長
 - 局長
 - 參事官
 - 祕書官
 - 書記官
 - 屬
- 第十五條 各省總務長官ハ一人勅任トス(明治三十三年勅令第百六十一號ヲ以テ改正)

- 第十六條 總務長官ハ大臣ヲ佐ケ事務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督シ及總務局ノ事務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス(上同)
- 第十七條 各省官房長ハ一人勅任トス(明治三十一年勅令第二百五十七號同三十三勅令第六十一號ヲ以テ改正)
- 第十七條ノ二 官房長ハ機務ヲ管掌シ及大臣官房ノ事務ヲ指揮監督ス(明治三十三年勅令第百六十一號ヲ以テ追加)
- 第十八條 各局局長ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス(明治三十一年勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)
- 第十九條 參事官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル但シ其ノ中一人ハ勅任ト爲スコトヲ得(明治三十年勅令第八十四號同三十一年勅令第二百五十七號ヲ以テ改正同三十三年勅令第六十一號ヲ以テ但書追加)
- 第二十條 參事官ハ其ノ省ノ便宜ニ從ヒ局課ニ兼勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ク
- 第二十一條 祕書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク
- 第二十二條 書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク(明治三十一年勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)
- 第二十三條 各省專任祕書官ハ一人トス但外務省ニ於テハ專任二人ヲ置クコトヲ得
- 各省專任參事官專任書記官ハ併セテ九人以下トシ其ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム但シ内務省大藏省及逓信省ニ於テハ十四人以下ヲ置クコトヲ得(明治三十年勅令第八十四號同三十一年勅令第二百五十七號及同三十三年勅令第六十一號ヲ以テ改正)
- 第二十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ニ定ムル所ニ依ル
 第二十五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
 第二十六條 各省判任官ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム
 第二十七條 本則ニ掲クルモノ、外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

附 則

第二十八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

(備考) 明治三十三年勅令第六十一号ニテ改正ノ條項ハ同五月二十日ヨリ施行

○文部省官制

明治三十一年十月二十二日
 勅令第二百七十九号

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

- 第一條 文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス
 第二條 總務局ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル(明治三十三年勅令第六十号)
 一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 二 公立學校職員ニ關スル事項
 三 教員免許ニ關スル事項

- 四 圖書ニ關スル事項
 五 建築營繕ニ關スル事項
 六 高等教育會議ニ關スル事項
 七 學校衛生ニ關スル事項
 八 博覽會ニ關スル事項
 九 褒賞ニ關スル事項
 第三條 文部省專任參事官ハ四人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス(明治三十三年勅令第百)
 第四條 文部省ニ左ノ三局ヲ置ク(明治三十三年勅令第百)
 專門學務局
 普通學務局
 實業學務局
 第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(上)
 一 帝國大學及高等學校ニ關スル事項
 二 專門學校ニ關スル事項
 三 以上ノ學校ニ進スヘキ各種學校ニ關スル事項
 四 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項
 五 圖書館及博物館ニ關スル事項
 六 天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項

- 七 學術技藝ノ獎勵及調査ニ關スル事項
 - 八 測地學委員會及震災豫防調査會ニ關スル事項
 - 九 學士會院ニ關スル事項
 - 十 學術會ニ關スル事項
 - 十一 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
- 第六條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 師範教育ニ關スル事項
 - 二 中學校ニ關スル事項(同上本号追加以下續下)
 - 三 小學校及幼稚園ニ關スル事項
 - 四 高等女學校ニ關スル事項
 - 五 盲啞學校ニ關スル事項
 - 六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 七 教育博物館ニ關スル事項
 - 八 通俗教育及教育會ニ關スル事項
 - 九 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
- 第六條ノ二 實業學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上本條追加)
- 一 工業學校ニ關スル事項
 - 二 農業學校ニ關スル事項

- 三 商業學校ニ關スル事項
 - 四 公立及私立商船學校ニ關スル事項
 - 五 徒弟學校及實業補習學校ニ關スル事項
 - 六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 七 實業教育費國庫補助ニ關スル事項
 - 八 實業學校教員ノ養成ニ關スル事項
 - 第七條 文部省ニ專任視學官五人ヲ置ク奏任トス學校ノ視察ヲ掌リ又各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル
 - 第八條 文部省ニ專任圖書審査官三人ヲ置ク奏任トス圖書ノ審査ヲ掌ル
 - 第九條 文部省ニ專任技師四人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル
 - 第十條 文部省ニ專任技手十人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク(明治三十二年勅令第百四十一号ヲ以テ本條改正)
 - 第十一條 文部省學校衛生主事一人ヲ置ク奏任トス學術衛生ニ關スル事務ヲ掌ル(明治三十三年勅令第百六號ヲ以テ改正)
- 附 則
- 第十二條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス
- (備考) 明治三十三年勅令第百六號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ第百八號ヲ以テ改正ノ條項ハ同五月二十日ヨリ施行

○視學官及視學特別任用令

(本文一一二三頁載録)

○文部省圖書審查官任用方

明治三十年十月六日
勅令第三百四十五號

文部省圖書審查官及圖書審查官補ハ文官任用令第四條ニ依リ任用スルコトヲ得(明治三十二年勅令第二百六十一號ヲ以テ)
改正

○文部省分課規程

明治三十三年四月二日
文部大臣訓令

第一條

總務局ニ人事課文書課會計課圖書課建築課及學校衛生課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム

(明治三十三年五月二十日
文部大臣訓令ヲ以テ本條改正)

人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
- 二 官吏ノ恩給及退官賜金ニ關スルコト
- 三 公立學校職員ノ進退身分ニ關スルコト
- 四 雇外國人ニ關スルコト
- 五 總務長官ノ官印ノ管守ニ關スルコト

明治三十一年勅令第二百七十九號
ニ依リ圖書
審查官補ノ
項消滅
明治三十二年勅令第六十一號
文官任用令改正
ニ依リ第四
條ハ第五條
ニ該當

六 高等教育會議ニ關スルコト

七 褒賞ニ關スルコト

八 御眞影竝ニ勅語謄本ニ關スルコト

九 祝日祭日等ノ儀式ニ關スルコト

十 本省及所轄各部ノ處務規程ニ關スルコト

文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スルコト

二 公文書類ノ編纂及保存ニ關スルコト

三 教員免許ニ關スルコト

四 統計報告ノ調製竝官報掲載ニ關スルコト

五 報告書年報等ノ編纂配賦ニ關スルコト

六 文書ノ翻譯ニ關スルコト

七 博覽會ニ關スルコト

八 各局課ノ主管ニ屬セサル事務

會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スルコト

二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト

三 會計ノ監査ニ關スルコト(明治三十三年六月二日文部大臣訓令ヲ以テ追加以下線下)

- 四 公立學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スルコト
 - 五 本課主管ニ屬スル事件ニ就キテノ訴訟等ニ關スルコト
 - 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 教科用圖書ニ關スルコト
 - 二 教育上必要ナル圖書ノ編纂ニ關スルコト
 - 三 參考圖書ノ管理ニ關スルコト
 - 建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本省所轄ノ學校圖書館博物館等ノ營繕ニ關スルコト
 - 二 本省使用建物ノ營繕ニ關スルコト
 - 三 公立及私立諸學校圖書館博物館等ノ設計及圖案ノ調査ニ關スルコト
 - 四 本課主管ニ屬スル事件ニ就キテノ訴訟等ニ關スルコト
 - 學校衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 學校衛生ニ關スルコト
 - 二 學校醫ニ關スルコト
 - 三 衛生統計ニ關スルコト
 - 四 學校衛生顧問會議ニ關スルコト
- 第二條 專門學務局ニ第一課第二課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
- 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 帝國大學及高等學校ニ關スルコト
 - 二 專門學校ニ關スルコト
 - 三 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト
 - 四 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スルコト
 - 五 學位及之ニ類スル稱號ニ關スルコト
- 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 圖書館及博物館ニ關スルコト
 - 二 天文臺氣象臺測候所ニ關スルコト
 - 三 學術技藝ノ獎勵及調査ニ關スルコト
 - 四 測地學委員會震災豫防調査會及緯度觀測所ニ關スルコト
 - 五 學士會院ニ關スルコト
 - 六 學術會ニ關スルコト
 - 七 他課ニ屬セサル事務
- 第三條 普通學務局ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
- 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ニ關スルコト
 - 二 教員免許ニ就キ公立私立學校認定ニ關スルコト
 - 三 小學校及幼稚園ニ關スルコト

四 學齡兒童ノ就學ニ關スルコト
 五 盲啞學校ニ關スルコト
 六 小學校ニ進スヘキ各種學校ニ關スルコト
 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 中學校ニ關スルコト
 二 高等女學校ニ關スルコト
 三 文官任用令徵兵令陸軍補充條例ニ依ル學校ノ等位認定等ニ關スルコト
 四 中學校高等女學校ニ進スヘキ各種學校ニ關スルコト
 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ就キ府縣郡市町村ノ行政及經濟ニ關スルコト
 二 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ就キテノ訴願ニ關スルコト
 三 教育博物館ニ關スルコト
 四 通俗教育及教育會ニ關スルコト
 五 他課ニ屬セサル事務
 第四條 實業學務局ニ第一課第二課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 實業學校及之ニ進スヘキ各種學校ノ學則教員ノ資格編制及設備ニ關スルコト
 二 實業學校教員ノ養成ニ關スルコト

明治二十九年勅令第三十九號
 百三十七號
 ナテ收稅
 長收稅屬收
 稅項廢止
 條廢止

第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 實業學校ノ設置廢止ニ關スルコト
 二 實業教育費國庫補助ニ關スルコト
 三 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ就キ府縣郡市町村ノ行政及經濟ニ關スルコト
 四 他課ニ屬セサル事務
 ○文部省視學官視學規程
 (本文一二二五頁載録)
 ○地方官官制 明治二十六年十月三十日勅令第百六十二號
 第一條 各府縣ニ左ノ職員ヲ置ク
 知事
 書記官
 警部長
 參事官
 視學官(明治三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加)
 技師

典獄

属

視學(上同)

技手

警部

通譯(明治三十三年勅令第
九十五號ヲ以テ追加)

監獄書記

看守長

第二條 知事ハ一人勅任トス

第三條 書記官、警部長、參事官、視學官及典獄ハ各一人奏任トス但シ内務大臣ノ指定スル府縣

ニ於テハ參事官二人ヲ置クコトヲ得(明治三十二年勅令第
百五十三號ヲ以テ改正)

第四條 属、警部、監獄書記及看守長ハ判任トシ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス

属、警部、監獄書記及看守長

七千十八人(明治二十九年勅令第十五號同三十
三年勅令第九十五號ヲ以テ改正)

属、警部、監獄書記及看守長ノ每府縣ノ定員ハ主務大臣之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣ノ

認可ヲ經テ知事之ヲ定ム(明治三十三年勅令第
百七十號ヲ以テ改正)

視學ハ判任トシ其ノ定員ハ内務大臣及文部大臣之ヲ定ム(明治三十二年勅令第
百五十三號ヲ以テ追加)

第五條 技師、技手及通譯ハ府縣ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

通譯ハ判任トス(明治三十三年勅令第九
十五號ヲ以テ本條改正)

第六條 知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命

令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第七條 知事ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ府

縣令ヲ發スルコトヲ得

第八條 知事ハ郡長又ハ島司ノ處分若クハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリ

ト認ムルトキハ其處分若クハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅

團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十條 知事ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下

ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十一條 知事ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行

ス

第十二條 知事ハ應中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條 知事事故アルトキハ書記官其ノ職務ヲ代理ス

前項ノ場合ニ於テ書記官事故アルトキハ内務大臣ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ

代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十四條 知事ハ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第十五條 各府縣ニ知事官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

- 一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
- 二 文書ノ往復ニ關スル事項

三 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項

四 褒賞ニ關スル事項(同上)
(追加)

第十六條 各府縣ニ左ノ部署ヲ置ク

内務部

警察部

監獄署

第十七條 内務部ニ五課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ但シ知事ハ事務ノ情況ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ經テ課ヲ増置シ若ハ其ノ事務ノ分掌ヲ變更スルコトヲ得(同上)
(改正)

第一課

一 議員撰舉ニ關スル事項

二 府縣行政並郡市町村其ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項

三 府縣經濟並郡市町村其ノ他公立團體ノ經濟ノ監督ニ關スル事項

四 兵事ニ關スル事項

五 社寺及宗教ニ關スル事項

六 名勝舊蹟ニ關スル事項

七 民籍ニ關スル事項

八 賑恤救濟ニ關スル事項

右ノ外他ノ主務ニ屬セサル事項

東京府ニ於テハ右ノ外衛生ニ關スル事項

第二課

一 土木ニ關スル事項

二 地理ニ關スル事項

三 土地收用ニ關スル事項

第三課

一 教育學藝ニ關スル事項

第四課

一 農工商ニ關スル事項

二 森林及水産ニ關スル事項

三 度量衡ニ關スル事項

第五課

一 府縣ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項

二 府縣經濟ニ屬スル收支出納ニ關スル事項

第十八條 警察部ニ於テハ高等警察、行政警察及衛生ノ事務ヲ掌ル

第十九條 (廢止)

第二十條 監獄署ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十一條 書記官ハ内務部長、警部長ハ警察部長、典獄ハ監獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十二條 内務部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

警察部長又ハ監獄署長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第二十三條 參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ審査立案ヲ掌ル

參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部ノ課長トナリ又ハ臨時部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第二十三條ノ二 視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル事務ヲ掌ル

視學官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部第三課ノ課長ト爲ル(同上本條追加)

第二十四條 警察部及監獄署ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告ス

第二十五條 内務部各課長ハ參事官又ハ視學官ヲ以テ課長ト爲ス場合ヲ除ク外屬ヲ以テ之ニ充ツ

但シ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(同上改正)

課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理ス

第二十六條 屬ハ内務部各課及知事官房ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十七條 警部ハ警察部又ハ警察署若クハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十八條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス(明治三十三年勅令第九十五号ヲ以テ改正)

第二十九條 監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條 看守長ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第三十條ノ二 視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス(明治三十二年勅令第百二十五号ヲ以テ追加)

第三十一條 各郡市ニ警察署ヲ置ク但シ地方ノ必要ニ應シ郡市ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ内務大臣其ノ管轄區域ヲ定ム

知事ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得(明治二十九年勅令第百四十九号ヲ以テ改正)

第三十二條 警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十三條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 (廢止)

第三十五條 (廢止)

第三十六條 知事ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ須要ノ地ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得(明治三十三年勅令第百七十七号ヲ以テ改正同七月一日ヨリ施行)

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十七條 府縣職員ノ外監獄醫ヲ置ク判任官ノ待遇トス特ニ警察醫ヲ置クトキ亦同シ(明治二十九年勅令第二

百四十九號ヲ以テ改正)

第三十八條 東京ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警視廳官制ニ依ル

第三十九條 郡職員ヲ置クコト左ノ如シ

郡長

郡書記

郡視學(明治三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加明治三十三年四月一日ヨリ施行)

第四十條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第五條ニ依リ數郡ニ郡長一人ヲ置キタル地

方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ要スルトキ及同條ニ依リ新ニ數郡ニ郡長一人ヲ置クコトヲ要スル

トキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ毎郡ニ郡長一人ヲ置ク

第四十一條 郡長ハ奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌

理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十二條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十三條 郡長ハ部下ノ判任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得(同上)

第四十四條 郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ

得

第四十五條 郡長事故アルトキハ上席郡書記其ノ職務ヲ代理ス

第四十六條 郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十七條 郡書記ハ判任トス其ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

郡書記ハ郡長ノ任ヲ承ケ庶務ニ從事ス(同上)

第四十八條 郡視學ハ一人判任トス郡長ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス

(同上改正明治三十三年四月一日ヨリ施行)

第四十九條 勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク(同上)

第五十條 各島廳ニ左ノ職員ヲ置ク

島司

島廳書記

島廳視學(同上)

第五十一條 島司ハ一人奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務

ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五十二條 島司ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島廳令ヲ發スルコト

ヲ得

第五十三條 島司ハ部下ノ判任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得(同上)

第五十四條 島司ハ行政事務ニ就テ其部内町村吏員ヲ指揮監督ス

第五十五條 島司事故アルトキハ上席島廳書記其ノ職務ヲ代理ス

- 第五十六條 島司ハ島廳ノ官吏ナシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
 - 第五十七條 島廳書記ハ判任トス其ノ定員ハ其ノ府縣判任官ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム
島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス(同上)
 - 第五十八條 島廳視學ハ一人判任トシ當分ノ内島廳書記ヲシテ之ヲ兼子シム島司ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ従事ス(同上)
 - 第五十八條ノ二 知事ハ須要ニ依リ島廳ニ技手ヲ置クコトヲ得(同上)
- 附 則
- 第五十九條 本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

○判任官俸給令抄

明治二十四年七月二十七日 勅令第八十三號

- 第一條 判任文官ノ月俸ヲ別テ十級トシ別表ニ依リ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス
- 第二條 判任官ハ每級在職一年以上ニ至ラザレハ増給スルコトヲ得ス
但六級俸以下ノ者ハ此限ニアラス(明治三十年勅令第二百二十三號ヲ以テ追加同三十一年勅令第三百十號ヲ以テ改正)
- 第四條 判任官最上級俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練熟優等ナル者ハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ラス
百圓マテ増俸スルコトアルヘシ(明治三十一年勅令第三百十號ヲ以テ改正)
- 第五條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス非職者ニ於テモ亦同シ
但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ(明治二十五年勅令第九十七號ヲ以テ追加)

別表(明治三十一年勅令第三百十號ヲ以テ改正)

一級	七十五圓	二級	六十圓	三級	五十圓	四級	四十五圓	五級	四十圓
六級	三十五圓	七級	三十圓	八級	二十五圓	九級	二十圓	十級	十五圓

(參照) 北海道廳府縣及警視廳判任官ニハ本表中最低額以下六圓マテノ月俸ヲ給スルコトアルヘシ(明治二十六年十月三十日勅令第百八十二號)

○内國旅費規則

明治三十年九月二十四日 勅令第三百三十三號

- 朕内國旅費規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 内國旅費規則
- 第一條 内國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキ之ヲ支給ス
 - 第二條 内國旅費ハ分テ四等トシ別表定ムル處ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス
 - 第三條 汽車旅行ニハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ哩數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス
 - 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス
官用ノ船舶ニテ旅行シ官ヨリ賄フ爲サ、ルトキハ食卓料ヲ支給セス

第四條 官用ノ舟車馬ニテ旅行スルトキハ本令ノ汽車賃船賃車馬賃ヲ支給セス

旅行ノ性質又ハ地方ノ情況ニヨリ定額ノ汽車賃船賃車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五條 強雨積雪又ハ道路險惡ノ爲メ定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ハ定額二倍以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第六條 汽車賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シ之ヲ支給ス但シ一位未滿端數ノ路程ハ切捨トス

第七條 年度若ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ汽車旅行若ハ水路旅行ニシテ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シテ計算ス

第八條 陸路六里未滿汽車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給ス

第九條 在勤廳所在地ノ市區町村内ヲ巡廻シ遠距離ニ涉ルトキハ一日五十錢以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第十條 赴任ノ場合ニハ舊在地ヨリ新地マテ汽車賃船賃及車馬賃ニ限り定額ノ二倍ヲ支給ス

第十一條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給ス

第十二條 旅行中廢官退官非職退職若ハ死亡ノモノニハ前官若ハ本官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ退官ノモノハ此ノ限ニアラス

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ汽車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但シ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但シ通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

第十四條 測量土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡廻スル官吏又ハ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シテハ各省大臣ハ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 各省大臣ハ旅費ノ定額ヲ減少シ若ハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十六條 事務引繼殘務取調等ノ爲メ廢官若ハ退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 新ニ任用スル爲メ召喚スルトキハ新任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十八條 陸海軍武官文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其ノ他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ別表ニ準シ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附 則

第二十條 各省大臣ハ當分ノ內臺灣内ノ旅行ニ限り旅費定額ヲ以テ支辨シ難シト認ムル場合ニ於テ大藏大臣ニ協議シ定額ノ旅費ニ對シ必要ノ増額ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 各省大臣ハ當分ノ內臺灣在勤滿二年以上ニシテ廢官諭旨退官若ハ非職トナリ三十日以内ニ同地出發歸郷スルモノニハ前官若ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

日數ノ計算方ハ第十三條ノ例ニ據ル
 臺灣在勤中死亡ノ者アルトキハ本條ニ準シ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス
 第二十二條 本令ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

(別表) (明治三十二年勅令第百八號ヲ以テ改正)

等	級	旅費額
親任官	七 錢	七 錢
勅任官	六 錢	六 錢
奏任官	五 錢	五 錢
判任官	四 錢	四 錢
瀛車賃 <small>一哩ニ付</small>	七 錢	七 錢
船賃 <small>一海里ニ付</small>	七 錢	七 錢
車馬賃 <small>一里ニ付</small>	三十五錢	三十五錢
宿泊料 <small>一夜ニ付</small>	三 圓	三 圓
日當 <small>一日ニ付</small>	二圓五十錢	二圓五十錢
食卓料 <small>一日ニ付</small>	一圓七十錢	一圓七十錢
一 等	七 錢	七 錢
二 等	六 錢	六 錢
三 等	五 錢	五 錢
四 等	四 錢	四 錢
判任官	四 錢	四 錢
瀛車賃 <small>一哩ニ付</small>	七 錢	七 錢
船賃 <small>一海里ニ付</small>	七 錢	七 錢
車馬賃 <small>一里ニ付</small>	二十錢	二十錢
宿泊料 <small>一夜ニ付</small>	二 圓	二 圓
日當 <small>一日ニ付</small>	一圓五十錢	一圓五十錢
食卓料 <small>一日ニ付</small>	一圓五十錢	一圓五十錢
一 等	七 錢	七 錢
二 等	六 錢	六 錢
三 等	五 錢	五 錢
四 等	四 錢	四 錢
判任官	四 錢	四 錢
瀛車賃 <small>一哩ニ付</small>	七 錢	七 錢
船賃 <small>一海里ニ付</small>	七 錢	七 錢
車馬賃 <small>一里ニ付</small>	十五錢	十五錢
宿泊料 <small>一夜ニ付</small>	一 圓	一 圓
日當 <small>一日ニ付</small>	五十錢	五十錢
食卓料 <small>一日ニ付</small>	九十錢	九十錢

○官吏服務紀律

明治三十年七月二十九日勅令第三十九號

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

官吏服務紀律

- 第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ尋シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
- 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ
- 第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス
- 裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得
- 第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文章ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス
- 第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス
- 第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス
- 第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接ト問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
- 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
- 一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ其事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ

之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ事情ヲ知り隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レヌ
第十七條 本紀律ハ高等官判官任及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○文官任用令

明治三十二年三月二十七日
勅令 第六十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官任用令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官任用令

第一條 勅任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス但シ親任式ヲ以テ敍任スル官及別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 奏任文官特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者及官技術官、ヲ除クノ職ニ在ル者及在リタル者ニシテ高等官三等ノ文官ノ職ニ在ル者及在リタル者
- 二 滿一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者並ニ教官、技術官ノ在職年數ヲ除ク
- 三 勅任文官特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者及教官、技術官ヲ除クノ職ニ在リタル者ニシテ本令第二條第一項ノ資格ヲ有スル者
- 四 滿二年以上勅任檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者

滿二年以上勅任判事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法省ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得
滿二年以上帝國大學及文部省直轄諸學校ノ勅任文官ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ文部省部内ノ

勅任文官ニ任用スルコトヲ得

陸海軍將官ハ別ニ任用ノ規程アルモノノ外各其ノ部内ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第二條 奏任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 文官高等試験ヲ經テ其ノ合格証書ヲ有スル者

二 滿二年以上高等文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者竝ニ教官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

三 滿二年以上檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者

滿二年以上判事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法官ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條 判任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 文官普通試験ヲ經テ其ノ合格証書ヲ有スル者

二 文官高等試験ヲ經テ其ノ合格証書ヲ有スル者

三 官立公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル官立公立學校ノ卒業証書ヲ有スル者

四 高等商業學校舊附屬主計學校及舊主計專修科ノ卒業証書ヲ有スル者竝ニ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學、政治學又ハ經濟學ヲ教授スル私立學校ニ於テ明治二十六年十一月十日以前ニ卒業証書ヲ得タル者

五 滿二年以上文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者竝ニ教官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

第四條 教官及技術官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外高等官ニ在リテハ文官高等試験委員、判任官ニ在リテハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

第五條 特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ高等官ニ在リテハ文官高等試験委員、判任官ニ在リテハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ教官、技術官ノ中若ハ試験委員ニ於テ教官、技術官タルノ資格アリト認ムル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第六條 滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤績シタル者ハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經官直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第七條 本令第一條第二項第三項第四項、第二條第二項、第四條、第五條及第六條其ノ他特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者ハ文官試験ヲ經ルニ非サレハ其ノ各條項又ハ其ノ規程ニ指定シタル以外ノ文官ニ任用スルコトヲ得ス

第八條 文官任用及銓衡ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

○文官分限令

明治三十二年三月二十七日
勅令第六十二號

- 第一條 本令ハ親任式ヲ以テ叙任スル官、公使、秘書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス
- 第二條 官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ免セラルルコトナシ
- 第三條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得
 - 一 不具、廢疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
 - 二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ
 - 三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
- 前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス
- 第四條 官吏ハ廢官若ハ廢職ノ場合ニ於テハ當然退官者トス
- 第五條 第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス
- 第六條 官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラルルコトナシ
- 第七條 文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク
- 審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

- 第八條 文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク
- 第九條 懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ
- 第十條 第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス
- 第十一條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得
 - 一 懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ
 - 二 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ
 - 三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
 - 四 官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ
- 前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在テハ滿三年トス
- 第十二條 休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトナシ
- 前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得
- 第十三條 第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス
- 第十四條 免官ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣、奏任官ニ在テハ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ
- 休職ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在テハ内閣總理大臣ノ

認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ複職ヲ命スルトキ亦同シ

附 則

第十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス
官吏非職條例、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他従前ノ命令ニシテ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條 本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號ニ依リ非職又ハ休職ヲ命セラレ未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做ス

(參照)

勅令第二百八十六號(明治二十三年十二月二十七日官報)

第一條 技術官ノ休職ハ一年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

第二條 技術官ノ休職ニ關シ特別ノ規定ナキモノハ總テ官吏非職ノ例ニ依ル

第三條 本令ハ明治二十四年二月一日ヨリ施行ス現ニ休職中ノ者ノ休職期限モ亦同日ヨリ起算ス

○文官懲戒令

明治三十二年三月二十七日
勅令 第六十三號

第一章 總 則

第二條 親任式ヲ以テ敍任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條 官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

- 一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
 - 二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ
- 第三條 懲戒ハ左ノ如シ

- 一 免官
- 二 減俸
- 三 譴責

第四條 免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ職務ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額若ハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條 勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ
奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條 懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルヲテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章 懲戒委員會

第一款 總 則

第八條 懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條 文官高等懲戒委員會ハ高等事ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款 文官高等懲戒委員會

第十條 文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條 委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅任文官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條 委員會ハ委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ關員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條 委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中關員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條 委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一 其ノ官職ヲ失ヒタルトキ

二 委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條 委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條 幹事ハ高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條 委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條 書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條 書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三款 文官普通懲戒委員會

第二十二條 文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一 内閣

一 樞密院

一 各省

一 臺灣總督府

- 一 會計検査院
 - 一 行政裁判所
 - 一 警視廳
 - 一 北海道廳
 - 一 府縣
 - 一 臺灣ノ縣及廳
 - 一 貴族院事務局
 - 一 衆議院事務局
- 前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所管官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得
- 第二十三條 委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ内閣ニ在テハ法制局長官、樞密院ニ在テハ書記官長、各省ニ在テハ次官ヲ以テ之ニ充ツ
- 委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ内閣ニ在テハ賞勳局、法制局及内閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス
- 特別ノ事情アルキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得(明治卅三年勅令第二百一十一號ヲ以テ追加)
- 第二十四條 委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
- 第二十五條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス
- 第二十六條 委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條 書記ハ委員長所屬官吏ノ判任官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第二十八條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三章 懲戒手續

- 第二十九條 本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ
- 第三十條 前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ
- 委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ内國旅費規則ニ依リ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ
- 第三十一條 委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ駁申スヘシ
- 第三十二條 委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス
- 第三十三條 委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附 則

- 第三十四條 高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス
- 第三十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス
- 官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○文官判任以上ノ者退官賜金支給方明治二十三年六月二十日勅令第九十八號

文官判任以上ノ者在官滿一年以上ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス(明治二十六年勅令第九號ヲ以テ改正)
本令施行前ニ滿年賜金若クハ一時賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後退官シタルトキハ前項ニ掲クル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス
恩給ヲ受ケタル者竝自己ノ便宜ニ由リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス
本令ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○官吏恩給法明治二十三年六月二十日法律第四十三號

- 第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受ケルノ權利ヲ有ス
- 第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス
- 一 年齡六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ
 - 二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ

三 廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス

一 公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラズ恩給ヲ給ス

第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

交際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

兼官ニ依テ受ケル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷疾疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

- 一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二箇年
- 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三箇年

第七條 在官年數ハ判官任以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス

明治四年以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲クル者退官スルトキハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第八條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

- 一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數
 - 二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數
 - 三 從軍年加算ノ年月
 - 四 非職及休職中ノ月數
 - 五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數
 - 六 宮内省ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數
- 第九條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ
- 一 年齢二十歳未滿者ノ在官月數

二 高等官試補及判任官見習中ノ月數

三 郡區任判官ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數(明治三十三年法律第十一號ヲ以テ改正)

四 御用掛雇等外出仕勤仕ノ月數

五 第八條第二ニ掲クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數

六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數

第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 退官現時ノ俸給前後相同シキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ増加セス

第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス

一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキ

ハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

第十三條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員並市長町村長助役收入役名譽職參事會員及東京市京都市大阪市北海道ノ區長ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス(上)

第十四條 郡區判任官ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス(上)

商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限リ退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ証明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷疾疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪ユルト否ラサルト

第十八條 恩給ハ賈買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但法律施行ノ日ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス從前ノ命令ニシテ此法律ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

(備考) 明治三十三年法律第十號ハ三十三年四月一日ヨリ施行

○官吏恩給法施行規則

明治二十三年七月二日 閣令 第三號

第一章 恩給ノ請求

第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在官中履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戶籍調書

但官吏恩給法第十四條第一項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添付スルニ及ハス

第四條 公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケタル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其實情ヲ証明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

一 現認証書又ハ之ヲ証スル公文ノ寫若クハ口供書

二 醫師ノ診斷証書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ査覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り証據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給証書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給証書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ大藏省ヨリ本人居住地ノ地方廳ヲ經テ支給ス但權利消滅若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

(明治二十七年閣令第五號ヲ以テ改正)

(參照 削除)

第八條 恩給ヲ受ケタル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給証書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第九條 恩給ヲ受ケタル者他ノ地方ニ居住ヲ轉スルトキハ恩給支給ノ月ヨリ三十日以前其旨ヲ新舊居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ若シ此ノ期日ヲ過キ届出タルトキハ其ノ一期ノ金額ハ尙ホ従前ノ地方廳ニ於テ支給ス

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ各廳間互ニ其ノ者ニ係ル恩給支給ノ受繼ヲ爲シ其ノ引繼ヲ受ケタル地方廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ(同上本條改正)

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキハ俸給ノ支給 始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終ル其終退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラル若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十二條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一箇月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲グル最下金額十分ノ七マテノ增加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ三肢以上ヲ亡シタルトキハ 十分ノ七

- 第二項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
- 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
- 第四項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
- 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
- 第六項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

第三章 恩給ノ停止

第十三條 恩給ヲ受クル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終タル日)ヲ付記スヘシ

第十五條 恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ地方廳ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ權利キトキハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ大藏省ニ通知シ其恩給證書ハ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十六條 大藏省ニ於テ第十三條第十四條第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ通知シ且第十三條第十四條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ通知シテ其恩給ノ支給ヲ停止シ又復給セシム

ヘシ
地方廳ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第四章 雜 則

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ
地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作り地方廳方ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ效力アルモノトス

第十八條 恩給ヲ受クル者改氏名シタルトキハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ地方廳ハ恩給證書ノ裏面ニ其事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局及大藏臣ニ通知スヘシ

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者ノ左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル
一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ
三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ(同上)

第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ
第二十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

○文官傷疾疾病等差例

明治十八年三月二十七日
太政官達第十六號

官吏恩給令附則第五條傷疾疾病等差例左ノ通相定候條右ニ據リ取調候儀ト可心得此旨相達候事

官省院廳府縣

文官傷疾疾病等差例

公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ官吏恩給令附則第五條ニ掲ケル各項ニ該當スル者ニ等差ヲ付スルコト概テ左ノ如シ

第一條 偏眼ヲ盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ第四

項トス

第二條 兩耳ヲ聾スル者ハ第四項トス

第三條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第四條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼暗昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨スルヲ得ル者ハ第二項トス

第五條 咀嚼言語ノ兩機能ヲ併セ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス

第六條 咀嚼ノ用ヲ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障礙アル者ハ第

五項其輕キ者ハ第六項トス

第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス

第八條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第三項若クハ第五

項トス

第九條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十條 言語ノ機能ヲ廢スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)

第五項或ハ第六項トス

第十一條 胃腸膀胱等ニ瘻管ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第十二條 腸歇爾尼亞ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十三條 陰莖或ハ辜丸ヲ全失スル者ハ第三項トス

第十四條 陰莖ヲ半失スル者偏辜丸ヲ失スル者ハ共ニ第六項トス

第十五條 頸項背腰諸筋ノ運用ヲ妨ケル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十六條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ用ヲ全廢スル者ハ第一項トス

第十七條 一上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス

第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ用ヲ廢スルニ至ラサル者ハ第

六項トス

第十九條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四項トシ五指癒著若クハ強硬等ノ爲メニ把握探摸

ノ用ヲ廢スル者ハ第五項トス

第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス

第二十一條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六

項トス

第二十二條 一下肢ヲ失スル者ハ股關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス

- 第二十三條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第二十四條 踵骨ヨリ躡骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス
- 第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スル者ハ第五項トシ第一指ヲ併セ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十六條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス
- 第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス
- 第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四項トス
- 第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス
- 第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六項トス

○官吏遺族扶助法

明治二十三年六月二十日
法律第四十四号

- 第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲチスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス
- 一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ
- 二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ
- 三 恩給ヲ受クル者死去シタルトキ
- 第三條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

- 第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受クル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ
- 二 郡區判任官ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏ハ第二條ノ納金ヲ要セス(明治三十二年法律第十六號及同三十二年法律第十七號ヲ以テ改正)
- 第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス
- 公務ノ爲メ受ケタル傷痕ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞働及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ハ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ一トス
- 扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム
- 第五條 寡婦ヲキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス
- 第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ヲ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス
- 第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ス
- 第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男子子ハ家名繼襲者ニ限ル

第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未満又ハ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ラズ一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條 扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

- 一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
- 二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チタル月ノ翌月
- 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナ

キトキハ寡婦扶助料ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但シ一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス

公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十七條 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助料金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乗シタル額トス但一年未滿ノ在官月數ハ計算セス

第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタルトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○官吏遺族扶助法施行規則

明治二十三年七月二日
閣令 第四號

第一章 扶助料ノ請求

- 第一條 官吏遺族扶助法第一條第一第二及第十七條ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ
- 第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ
- 第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ查覈シ其傷殘若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル証據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ
- 第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料証書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ
- 第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ
- 第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ癱疾不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ
- 第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ後見人アレハ其後見人連署スヘシ親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ奥印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調

書ヲ添附シ地方長官ニ差出スヘシ

第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ查覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り証據書類ヲ添ヘ

内閣總理大臣ニ差出スヘシ

内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料証書ヲ作り地方廳チシテ之ヲ本人ニ下付セシム但一時

ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

扶助料証書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 納金ノ徵收

第九條 官吏遺族扶助法第二條ニ掲クル納金ハ俸給支給ノトキ各廳ニ於テ之ヲ徵收シテ國庫ニ納

ムヘシ

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ地方廳ニ

於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方官ニ於テ其扶助料証書ヲ收メテ内

閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ官吏恩給法

施行規則第十三條ノ例ニ依ル

第十三條 大藏省ニ於テ第十一條第十二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條

ノ例ニ依ル

雜 則

第十四條 水火災盜難等ニ依リ扶助料証書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル

第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給証書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ(明治二十七年閣令第六號ヲ以テ改正)

第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

○官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

明治二十九年三月二十九日 法律第三十六號

第一條 地方税支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長ノ在官月數ハ官吏ノ恩給及遺族扶助ニ關スル在官年數中ニ算入ス

第二條 明治二十三年七月一日以後ニ退官シタル文官判任以上ノ者ニシテ地方税支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長在官中ノ月數ヲ除算シ恩給ヲ受ケ若ハ之カ爲恩給ヲ受ケサリシ者ニハ其ノ月數ヲ

算入シ恩給ヲ増加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

第三條 第二條ニ相當スル者在官中又ハ退官ノ後死去シ其ノ遺族ニシテ扶助料若ハ一時扶助金ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケサリシ者ニハ第一條ニ依リ算定シタル恩給年額若ハ在官年數ニ依リ其ノ扶助料若ハ一時扶助金ヲ増加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

第四條 第二條第三條ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ方法ニ依リ最後ニ受ケタル退官賜金又ハ一時扶助金ノ一部ヲ返納セシム

新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料年額ニ其ノ退官又ハ死去以後新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル日ニ至ルマテノ年數ヲ乘シ月數ハ其ノ月割額ヲ加ヘ退官賜金一時扶助金ヲ其ノ總額ニ對照シ若シ超過アルトキハ其ノ超過額ヲ新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料中ヨリ控除ス

第五條 恩給ヲ受クル者郡區判任官ニ任用セラレタルハ其ノ間恩給ヲ停止ス(明治三十三年法律第十二號ヲ以テ改正)

第六條 第二條、第三條ニ依リ給スル恩給及扶助料ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ起算シテ之ヲ給ス

第七條 第二條、第三條ニ依リ受クヘキ恩給、扶助料又ハ一時扶助金ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年內ニ請求セサレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第八條 此ノ法律ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第九條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

(備考) 明治三十三年法律第十二號ハ三十三年四月一日ヨリ施行

○官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

明治二十九年三月三十日 閣令 第二二二號

- 第一條 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則第二條ニ依リ恩給ノ増加ヲ受ケ若クハ新ニ恩給ヲ受ケントスル者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ
- 第二條 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則第三條ニ依リ扶助料又ハ一時扶助金ノ増加ヲ受ケ若クハ新ニ之ヲ受ケントスル者ハ其ノ請求書ヲ居住地ノ地方長官ニ差出スヘシ
- 第三條 恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
 - 一 在官中ノ履歷書
 - 二 市町村長ノ證明シタル戸籍寫
 但恩給ヲ請求スル者ニ在リテハ其ノ退官當時ノ戸籍寫扶助料若クハ一時扶助金ヲ請求スル者ニ在リテハ元官吏タリシ者死亡當時ノ戸籍寫及明治二十九年四月一日現在ノ戸籍寫トス
- 三 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行前ニ恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ證書若クハ辭令書
- 第四條 第一條ニ依リ新ニ恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ官吏恩給法施行規則第五條ニ掲ケル計算書ノ外退官當時給與シタル退官賜金ノ調書ヲ添附スヘシ
- 第五條 恩給ヲ受ケタル者ヲ郡區書記ニ任用シ若クハ解任シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十條第十四條及第十六條ヲ準用ス但從來任用シタル者ハ直ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 本規則ニ於テ特別ノ規程ヲ設ケタルモノハ總テ官吏恩給法施行規則及官吏遺族扶助法施行規則ノ例ニ依ル

○恩給又ハ扶助料ノ支拂請求者生存證書提出不要方

明治三十三年三月十二日 勅令 第十四号

恩給又ハ扶助料ノ仕拂ヲ請求スル者ハ自今生存證書ヲ提出スルコトヲ要セス

○徵兵令

明治二十二年一月二十一日 法律 第一一號

第一章 總 則

- 第一條 日本帝國臣氏ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スル義務アルモノトス
- 第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス(明治二十八年法律第(十五号)ヲ以テ改正)
- 第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス
- 現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス(上同)
- 第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

附錄

(恩給又ハ扶助料ノ支拂請求者生存證書提出不要方)
(徵兵令)

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四箇月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス(同上)

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス(同上第五條ヲ改メ第六條ヨリ第九條マテ逐條繰下)

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其刑ヲ延スコトアル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ役ニ兵服スルコトヲ許サス

第二章 服 役

第九條 陸軍現役兵及ヒ補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及ヒ雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之レニ充ツ

海軍現役兵及ヒ補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及ヒ雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但シ海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スルモノハ本令ノ限ニアラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁近衛師團ニ編入スル者ヲ除クハ總テ之レヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但シ在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアルヘシ但シ常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤當籤ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校小學校及理科等府縣立師範學校中學校若ハ

文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若ハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若ハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ兵役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スルモノハ志願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但シ費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサル証アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ(明治二十二年法律第二十九號同二十六年法律第四號同二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス(明治二十二年法律第二十九號同二十六年法律第四號ヲ以テ改正)

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム(明治二十二年法律第二十九號ヲ以テ改正)

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但シ第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(明治二十二年法律第二十九號同二十六年法律第四號同二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス(明治二十八年法律第

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス(同上追加第十五條削除第十六條第十八條トシ以下第二十二條マテ逐條續下)

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルルハ其家族自活シ能ハサルノ確証アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス

其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ

之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス(明治二十二年法律第二十九號同二十六年法律

外國ニ在ル者(朝鮮國ニ在ル者ヲ除ク)ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年

志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(明治二十八年法律第

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 雜 則(同上第四章削除以下逐章續上)

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ

附錄 (徵兵令)

一四〇九

又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ^{戸主ニ非サル者ハ其戸主ヨリ}本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス^{(同上)(改正)}

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス^(七)

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月

一日^{第十三條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ヨリ}陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ

起算ス但第四條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其

豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第

五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル

場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス^{(同上)(條改正)}

第五章 罰 則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附 則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸チ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム^(上同)

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス^(上同)

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵ニ數セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願者ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ兵ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得(明治二十六年法律第四號ヲ以テ改正)

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十月二日ヨリ起算)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ豫備第一徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ兵役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル
第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出

可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其敎職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(明治二十二年法律第二十九號ヲ以テ本項追加同二十六年法律第四號同二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第十三條ニ依リ處分ス可シ(明治二十二年法律第二十九號ヲ以テ改正)

○陸軍六週間現役兵條例

明治二十八年十月四日 勅令第四百四十一號

第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ敎職ニ就キタル年若クハ其ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師管内ノ歩兵隊(警備隊ヲ置ク島嶼ニ在テハ警備隊、臺灣ニ在テハ最寄ノ歩兵隊)ニ編入シ服役セシム(明治三十一年法律第十五號ヲ以テ改正)

第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日(臺灣ニ在テハ十月一日)トス但疾病其ノ他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集ス(上)

第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス
戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

第四條 六週間現役兵ノ敎育ハ聯隊長(獨立大隊ニ在テハ隊長、警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ依リ)其ノ責ニ任ス

第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長(臺灣ニ在テハ旅團長)ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部

適任證書ヲ授與ス(上)

第六條 六週間現役兵ノ身體検査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵検査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セサル者ハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス

北海道臺灣及沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ニ關スル規程ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム(上)

第七條 附則

検査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○陸軍六週間現役兵條例施行細則

明治三十年四月五日 陸軍省令第九號

陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ就職ニ就キタル年居住地所在ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後就職トナリタル者ハ翌年廻トス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先タチ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官以下同シニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ

但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ明治三十一年陸軍省令第四號ヲ以テ改正

第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附錄第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣廳ニ送付シ合格者並ニ徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ本籍所在ノ島司郡市長北海道ニ在テハ北海道廳支廳長、東京市、京都ニ送付スヘシ、明治三十一年陸軍省令第四號同三、十二、年陸軍省令第九號ヲ以テ改正

第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ明治三十一年陸軍省令第四號ヲ以テ但書創設

第五條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師團長地方官協議ノ上時宜ニ依リ就職ニ就クヘキ年身體検査ヲ爲シ又北海道ニ在テハ居住地所在ノ聯隊區外ニ於テ身體検査ヲ爲スコトヲ得(同上)

第六條 身體検査後入營前就職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令部ニ通報スヘシ(明治三十一年陸軍省令第四號ヲ以テ但書創設、除同三十二年陸軍省令第九號ヲ以テ改正)

第七條 臺灣ニ在ル者ノ身體検査ハ左ノ諸項ニ依リ施行スヘシ

- 一 總督府ニ於テハ身體検査ヲ受クヘキ者ヲ調査シ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り最寄ノ歩兵隊ニ送付シ身體検査ヲ施行セシムヘシ
- 二 歩兵隊長ハ第三條第一項ニ準シ身體検査及徵否ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ合格證書ヲ付與シ

合格者及徵集延期ニ属スル者ノ名簿ヲ總督府ニ差出シ總督府ニ於テハ第四條ニ準シ合格者ヲ各部隊ニ配賦スヘシ

三 步兵隊長ハ合格兵及徵集延期ニ屬スヘキ者ノ人名書若クハ徵集ニ適セサル者ノ名簿ヲ添ヘ本籍所管ノ聯隊區又ハ警備隊區徵兵官ニ通知シ該徵兵官ハ其ノ徵集ニ適セサル者ノ處分ヲ爲スヘシ(同上改正)

第八條

六週間現役退營スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備隊ニ在テハ該司令官以下同シハ該名簿ヲ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官警備隊司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付スヘシ

條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ名簿ニ記載シ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附錄第二樣式ニ準シ調製スヘシ

第九條 國民軍幹部適任證書ニ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ返還セシム

第十條 前諸條ニ掲クルモノノ外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定メ臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定ムヘシ(明治三十二年陸軍省令第九号ヲ以テ改正)

附 則

明治三十年ニ於テ徵募スル六週間現役兵ノ身體検査ハ聯隊區司令部若クハ聯隊區内便宜ノ地ニ於テ施行スルコトヲ得

(樣式略ス)

陸軍一年志願兵條例

明治二十六年七月十九日勅令第七十二號

朕陸軍一年志願兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ服役スヘキ兵科及衛戍地ヲ選フコトヲ得但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス(明治二十八年勅令第三十四號同三十二年勅令第十四號ヲ以テ改正)

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六十二圓糧食費トシテ金三十八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ金七十六圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徴シ殘餘アルトキハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長聯隊長ヲ成サ、ル隊ニ在テハ該隊長以下同シ外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其検査往復竝ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ廻シ入隊セシム(明治二十八年勅令第三十四號ヲ以テ追加)

第七條 一年志願兵ハ現兵滿期ノ後六箇年四箇月間豫備兵ニ五箇年間後備兵ニ服セシム
豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服
役年期ニ算セス(同上本
條改正)

第八條 一年志願兵志願者ハ其ノ願書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ之ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長
東京京都大阪ノ三市及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長北
海道ニ在テハ北海道廳支廳長又ハ區長以下同シ
ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令第十三
條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戶主ニアラサル者ハ戶主二十歳未滿者ハ戶主若クハ後見人及
親權ヲ行フ父又ハ母ノ承認書ヲ添附スルヲ要ス(明治二十八年勅令第三十四號同二十九
年勅令第九十一號同
三十二年勅令第百十四號同三十三年勅令第百二十四號同三
十四年勅令第百二十一
號ヲ以テ改正)

島司郡市長ハ志願者ノ身元資産竝ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月
三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ
直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ師團長ニ届出ヘシ(明治二十八年勅令第三十四號同二十
九年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

第十條 師團長ハ第八條ノ志願兵中學術試驗ヲ受クヘキ者ノ人員ヲ各検査場ニ區分シ二月二十日
迄ニ教育總監ニ具申シ又人名書ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス(明治二十九年
勅令第百九十
一號同三十二年勅令第百十四號同三
十四年勅令第百二十一號ヲ以テ改正)

第十一條 一年志願兵ノ學術試驗格例ハ毎年陸軍大臣之ヲ告達ス(明治三十二年勅令第
百十四號ヲ以テ改正)

第十二條 師團長ハ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體検査時日ヲ定メ北海道廳長官府縣知事ニ通達シ
本人ヲ検査地ニ召集ス(明治三十三年勅令第
百二十四號ヲ以テ改正)

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシメ其合格者ハ陸軍將校
生徒試驗臨時委員ヲシテ學術試驗ヲ行ハシム(明治二十七年勅令第八號同二十九
年勅令第百九十一號ヲ以テ改正)

第十四條 師團長ハ試験ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落
第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ(同上)

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常ノ徵兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志
願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書
ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十五條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條若クハ第
四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ
納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ
授ケ更ニ二箇月以上經過ノ後上等兵トナシ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月以上經過ノ後伍長
ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム其ノ一等卒上等兵ヲ命シ及伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於
テスルモノトス(明治卅二年勅令第百十四號同三十三年勅令第百
二十四號同三十四年勅令第百二十一號ヲ以テ改正)
其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試驗委員ヲシテ終末試驗ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長旅團
長ノ

下ニ在ル騎隊長ノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ軍曹ニ其落第者ハ伍長ニ任シ豫備役ニ編入ス(明治二十九年勅令第九十一號第三十)

第十九條 (明治二十九年勅令第九十一號第三十) 同三十四年勅令第九十一號ヲ以テ改正

第二十條 (明治二十九年勅令第九十一號第三十) 同三十四年勅令第九十一號ヲ以テ改正

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫生、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書ヲ添ハ出願スヘシ

第二十二條 前條ノ志願者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ(明治二十九年勅令第九十一號第三十)

一等卒、上等兵ヲ命シ及伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テシ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルハ師團長ノ認可ヲ受ケ師團監督部長、師團軍醫部長又ハ師團獸醫部長ニ於テスルモノトス(明治三十二年勅令第四十四號ヲ以テ追加同三十三年勅令)

第二十二條ノ二 軍醫生、藥劑生又ハ獸醫生志願者ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ヲ經過シタル後上等兵ヲ命シ軍醫生、藥劑生又ハ獸醫生ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス(明治三十四年勅令第九十一號第三十)

第二十三條 軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛生部下士タルトキハ下士ノ勤務ヲ練習セシメ服役滿期ノ

級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

軍吏生ニハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタル日ヨリ更ニ三箇月以上經過ノ後伍長ノ階級ニ進ムヘシ(明治三十四年勅令第九十一號第三十)

第二十五條 軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長、軍醫部長若クハ獸醫部長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其及第者ニハ師團長ノ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ軍吏生ニ在リテハ二等計手ニ任シ豫備役ニ編入ス(明治二十九年勅令第九十一號第三十)

其ノ落第者ニ在テハ軍醫生及藥劑生ニハ衛生部下士適任證書、獸醫生ニハ蹄鐵工長適任證書、軍吏生ハ之ヲ伍長ニ任シ之ニ計手適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス(明治二十九年勅令第九十一號第三十)

衛生部下士適任證書ハ軍醫部長、蹄鐵工長適任證書ハ聯隊長之ヲ付與シ伍長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ聯隊長之ヲ任シ計手適任證書ハ監督部長之ヲ付與ス(上)

第二十五條ノ二 一年志願兵中疾病其ノ他ノ事故ニ由リ豫備士官タルヲ得ヘカラスト認ムル者ハ

第十八條第二十一條第二十二條及第二十二條ノ二ニ依ラス通常ノ勤務ニ服セシム

伍長ノ階級ニ進メタル後及軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命シタル後前項ニ該當シタル者

ハ伍長ノ階級、軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ免ス

第一項ニ當ル者ノ中下士タルヲ得ヘキ見込ノ者タルトキハ下士ノ勤務ヲ練習セシメ服役滿期ノ

際其ノ成績ニ依リ下士適任證書ヲ付與シ又ハ第二十五條終末試験落第者ノ例ニ依ルコトヲ得
下士ノ勤務ヲ練習セシムル者ニシテ未タ上等兵トナラサルモノアルトキハ服役滿期迄ノ間ニ於
テ之ニ上等兵ヲ命ス

上等兵ヲ命スルハ聯隊長ニ於テシ、下士適任證書ヲ付與シ及伍長ノ階級ヲ免スルハ師團長ノ認
可ヲ受ケ聯隊長ニ於テシ、軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ免スルハ第二十二條第二項ノ例
ニ準ス(明治三十四年勅令第百二
十一號ヲ以テ本條追加)

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎年一年志願兵ノ終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス
軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫部長及獸醫部長ノ指揮ニ屬ス
(明治二十九年勅令第百
九十一號ヲ以テ改正)

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將
校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士卒ト同一トス但
軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長ト同一トス(明治三十三年勅令第
百二十四號ヲ以テ改正)

軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス(明治二十七年勅令第
八號ヲ以テ本條改正)

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアル
ヘシ(明治二十八年勅令第
三十四號ヲ以テ改正)
通常ノ現役勤務ニ服セシメタルトキハ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費用ハ總テ之ヲ官費

トス(明治三十四年勅令第百
二十一號ヲ以テ追加)

第三十一條 第八條ノ願書ヲ差出シタル後入隊迄ノ間ニ於テ轉籍、轉住、氏名變更、犯罪、死亡
其ノ他願書及其ノ添付書類ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ其ノ親族ヨリ師團
長ニ届出ツヘシ(明治二十九年勅令第百九十二號同三十二年勅令第
百十四號同三十四年勅令第百二十一號ヲ以テ改正)

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊
シ難キトキハ證明書類ヲ添へ入隊延期ヲ該隊所管ノ師團長ニ出願スヘシ(明治三十二年勅令第
百十四號ヲ以テ改正)
前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲
シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ(明治二十九年勅令第百九
十一號ヲ以テ本條改正)

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徵兵
官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ(明治二十九年勅令第百
九十一號ヲ以テ改正)

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルト
キハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ルモノハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷痍若ク
ハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ服役ヲ免ス

一 傷痍若クハ疾病ニ由リ服役ニ堪ヘ難キトキ
二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ
(明治二十八年勅令第百三十四號同二十九
年勅令第百九十一號ヲ以テ本條改正)

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出ントスル者ハ其ノ願書ニ近隣ノ戸

主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ差出ス
ヘシ但町村ニ於テハ町村長 町村制ヲ施行セザル地方ニ在テハ長又ハ之ニ準スヘキ者ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス
 島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ(明治二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本條例追加同三十二年勅令第九十四號ヲ以テ)
本條改正

第三十七條 第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス但シ一年志願兵認定證書付與後入隊前ノ者ニ在テハ師團長自ラ第二國民兵役ニ服セシメ若ハ兵役ヲ免スルノ處分ヲ爲ス(明治二十九年勅令第九十一號ヲ以テ追加次條ヲ)
(續下同三十二年勅令第九十四號ヲ以テ改正)

附 則

第三十八條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十一箇年四箇月トス(明治二十八年勅令第三十四號ヲ以テ改正)

第三十九條 臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ當分臺灣守備步兵隊ニ於テ服兵スルコトヲ得(明治三十三年勅令第二百二十四號ヲ以テ本條追加)

第四十條 前條ニ依リ服役スル者ニ關シテハ本條例中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ行フ

混成旅團長ハ部下ノ將校及軍醫ニ一年志願兵検査委員ヲ命シ身體検査其ノ他徵募ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ(同)

第四十一條 第三十九條ニ依リ役服セント欲スル者ハ明治三十三年ニ限リ七月三十一日迄ニ第八條ノ願書ヲ差出スコトヲ得(上)

○陸軍一年志願兵條例施行細則

明治二十六年七月二十二日 陸軍省令第十號

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ノ所屬隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品左ノ如シ

- 一 第一種帽 前立共
- 二 第二種帽
- 三 絨衣袴(明治三十四年陸軍省令第八號ヲ以テ改正)
- 四 略衣袴(上)
- 五 夏衣袴 二著
- 六 日覆
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 軍隊手牒(上)
- 十 背囊

十一 被服手入具

十二 飯盒

十三 水筒

十四 寢具

第二條 糧食費自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二樣式ニ承認書ハ第三樣式ニ證明書ハ第四樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第三條ノ二 學術ノ試験ヲ受クヘキ者ハ身體検査ノ際新タニ撮影シタル寫真紙裏面ニ族籍氏名一葉ヲ自書シタルモノヲ検査醫官ニ差出スヘシ(明治三十三年陸軍省令第十一號ヲ以テ追加)

第四條 條例第十三條ノ身體検査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ通知シ條例

第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ其ノ身體検査ニ不合格ノ者(二十歳未満ノ者ヲ除ク)體格検査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付ス

(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正第二項削除同三十三年陸軍省令第十一號ヲ以テ改正)

願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙師團長協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得(明治三十二年陸軍省令第十一號ヲ以テ追加)

前項ニ依リ乙師團ニ於テ検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲師團ニ通知シ甲師團ニ在テハ其ノ師管内ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ(上同)

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體検査ヲ爲ス可キ者ノ人名ハ師團長ヨリ聯隊區司令官又ハ

警備隊司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ

(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正)

願書差出後轉籍其ノ他止ムル得サル事故アリ他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テ該司令官以下同シ協議ノ上検査時

日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得(明治二十九年陸軍省令第十二號同三十二年陸軍省令第十一號ヲ以テ改正)

前項ニ依リ乙聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ其ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ(上同)

第六條 身體検査終ル後聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告スヘシ(上同)

師團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者(二十歳未満ノ者ヲ除ク)體格検査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付スヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號同三十二年陸軍省令第十一號ヲ以テ改正)

第七條 第四條及第六條ノ身體検査不合格ノ者ハ聯隊區徵兵官ハ警備隊區徵兵官徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其ノ一時徵集ニ適セサル者ハ徵集延期ノ處分ヲ爲スヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正)

第八條 師團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不參セル者並學術試験ニ落第シ若ハ關席シタル者(以上二十歳未満ノ者ヲ除ク)ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知ス可シ但シ身體検査

ヲ受ケタル者ニ在テハ體格検査表ヲ添フヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號同三十二年陸軍省令第十一號ヲ以テ改正)

聯隊區徵兵官警備隊區徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキ該徵募區ノ抽籤施行前ニ在テハ相當ノ

處分ヲ爲スヘシ(明治三十三年陸軍省令第十一號ヲ以テ追加)

第九條 師團長ハ合格人員中所管外ノ衛戍地ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ各冀望ノ兵科及衛戍地ヲ記シ之ニ體格検査表ヲ添ヘ當該所管師團ニ通知スヘシ(明治三十四年陸軍省令第八號ヲ以テ改正)

同兵種二隊以上アル衛戍地ニ於テ服役冀望ノ者アルトキハ前項ノ通知ヲ受ケタル師團長其ノ隊號ヲ指定シ之ヲ居住地所管ノ師團長ニ通知スヘシ(明治三十二年陸軍省令第十一號ヲ以テ本條追加以下逐條續下)

第十條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附錄第五様式ニ官費服役證書ハ第六様式ニ依リ作ル可シ但條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲ス可キ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載ス可シ(明治二十八年陸軍省令第五號ヲ以テ改正)

第十一條 師團長ハ同兵種二隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均スヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正)

官費服役者中醫學、藥學、理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊(理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在)ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配付スヘシ(地歩兵隊ニ限ル)

第十二條 師團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者及第九條第一項ニ依リ通知ヲ受ケタル者ヲ自費服役官費服役、次年廻シ等ニ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長(聯隊長成サ、該隊長ニ下付スヘシ)ニ下付スヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號同以下同)

前項中近衛師團ニ係ルモノハ第一師團長ヨリ近衛師團長ニ送附シ近衛師團長ヨリ當該聯隊長ニ下付スヘシ(明治三十四年陸軍省令第八號ヲ以テ追加)

第十三條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ師團

長ニ報告スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正)

近衛師團長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ第一師團長ニ通知スヘシ(明治三十四年陸軍省令第八號ヲ以テ追加)

第十四條 條例第三十一條第三十二條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ師團長其ノ必要ノ事項ヲ聯隊長ニ達スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正)

前條及前項ニ掲クル各條ノ事項ニ由リ入隊セサル者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得(明治二十八年陸軍省令第五號同三十四年陸軍省令第八號ヲ以テ改正)

第十五條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附錄第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十六條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ獸醫部長若クハ獸醫部長ニ送付シ監督部長、軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正)

第十七條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ更ニ徒歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十八條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附錄第八様式ニ依リ成績表ヲ作り陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十九條 一年志願兵終末試験及第証書ハ附錄第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第二十條 一年志願兵入隊前轉住其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキハ師團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ル者ハ豫メ當該師團長ト協議スルヲ要ス(上同)

第二十一條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第二十二條 條例第三十九條ニ依リ臺灣ニ於テ役服スル者ニハ第一條ノ被服裝具中略衣袴ヲ作業衣袴ニ飯盒ヲ飯行李ニ換ヘ別ニ日覆垂布ヲ給シ第一種帽ハ之ヲ給セス(明治三十三年陸軍省令第十一號ヲ以テ追加同三十四年陸軍省令第八號ヲ以テ改正)

第二十三條 條例第三十九條ニ依リ服役ヲ志願スル者ノ身體檢査ノ場所及志願者招集ノ手續ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ定ム(明治三十三年陸軍省令第十一號ヲ以テ追加)

第二十四條 臺灣ニ在テ第六條第八條第九條第十一條乃至第十五條第十八條及第廿條中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長聯隊區司令官ノ職務ハ一年志願兵檢査委員之ヲ行フ(上同)
(様式略ス)

○陸軍補充條例抄

明治二十九年十二月一日 勅令第三百七十九號

第七條 士官候補生ニ採用ツ得ヘキ者ハ左ノ如シ但シ准士官下士兵卒一年志願兵ニアラサル者及陸軍諸生徒ハ採用ノ限ニアラス(明治三十一年勅令第四十八號ヲ以テ但書追加)

二 官立、府縣立中學校若クハ文部大臣ノ指定シタル中學校ヲ卒業シ該校長ノ保証竝ニ入隊スヘキ隊長ノ承認ヲ得タル者

第十一條 一年志願兵ヨリ士官候補生ニ採用スル者ハ之ヲ命スルノ日其ノ服役ヲ免ス(明治三十一年勅令第二十七號ヲ以テ改正)

第三十一條 見習醫官、見習藥劑官ニ採用シ得ヘキ者左ノ如シ

一 帝國大學醫科大學學生ニシテ陸軍出身志願者中適當ノ者ヲ選抜シテ陸軍衛生部依託學生ト爲シ同學ノ課程ヲ卒ヘタル者

二 高等學校醫學部若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル府縣立醫學校ノ生徒ニシテ陸軍出身志願者中適當ノ者ヲ選抜シテ陸軍衛生部依託生徒トナシ同學校ノ課程ヲ卒ヘタル者(明治三十一年勅令第四十八號ヲ以テ本條改正)

第四十一條 見習獸醫官ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ

一 帝國大學農科大學獸醫學科學生ニシテ陸軍出身志願者中適當ノ者ヲ選抜シテ陸軍獸醫部依託學生ト爲シ同學科ノ課程ヲ卒ヘタル者

二 帝國大學農科大學獸醫學科生徒ニシテ陸軍出身志願者中適當ノ者ヲ選抜シテ陸軍獸醫部

依託生徒ト爲シ同學實科ノ課程ヲ卒ヘタル者(明治三十一年勅令第二
百七號ヲ以テ本條改正)

第五十條 見習軍吏ニ採用シ得ヘキ者ハ一年志願者終末試験及第証書ヲ所持スル軍吏生トス

第五十一條 一年志願者終末試験及第証書ヲ所持スル軍吏生ニシテ現役軍吏志願ノ者ハ願書ヲ其ノ原所管ノ監督部長ニ差出スヘシ監督部長ハ之ヲ調査シ自己ノ意見書及考科表ヲ添ヘ陸軍省經理局長ニ進達スヘシ

第五十八條 豫備役將校同相當官ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

一 一年志願者終末試験及第証書ヲ得テ豫備役ニ入りタル者

第五十四條 動員ヲ行ヒタル師團ハ必要ニ應ジ左ニ掲クル者ヲ豫備兵見習士官、豫備役見習醫官、豫備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官、豫備役見習軍吏ト爲シ士官ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得但シ第五第六ニ該ル者ノ採用方法及時期ハ陸軍大臣ノ指定ニ依ル

一 一年志願者終末試験及第証書ヲ所持スル者

四 軍醫生、藥劑生、獸醫生タル一年志願兵

第五十六條 動員ヲ行ヒタル部隊ハ必要ニ應ジ左ニ掲クル者ノ中ヨリ下士ノ補充ヲ爲スコトヲ得

一 入隊後四箇月ヲ經過シタル一年志願兵(明治三十一年勅令第
四十八號ヲ以テ改正)

第一百八十一條 (前畧)

見習獸醫官ハ當分ノ内依託學生、依託生徒ニアラスシテ帝國大學農科大學軍醫學科又ハ同大學獸醫學實科ノ課程ヲ卒ヘタル者又ハ一年志願兵中獸醫生ニシテ獸醫免狀ヲ所持シ獸醫部現役士

官志檢ノ者ヨリ採用スルコトヲ得但シ一年志願兵ヨリ採用ノ者ハ之ヲ命シタル日ヲ以テ其ノ服役ヲ免ス(明治三十三年勅令第三
百九十號ヲ以テ改正)

前項ニ依リ採用シタル者ノ中農科大學獸醫學科ノ課程ヲ卒ヘタル者ハ陸軍二等獸醫ニ其ノ他ハ陸軍三等獸醫ニ任ス其ノ手續ハ第四十五條第一項ノ例ニ依ル(同上本
項追加)

○陸軍召募規則抄

明治三十二年十一月十五日
陸軍省令第三十四號

陸軍召募規則左ノ通改正ス

士官候補生

第二十七條 中學全科卒業ニ至ラスト雖入隊スヘキ年ノ七月十日迄ニ卒業スヘキ者ハ陸軍補充條

例第十七條第二ニ該ル者ニ準シ願出ルコトヲ得(明治三十三年陸軍省令
第二十九號ヲ以テ改正)

第二十八條 前條ノ志願者中學全科卒業試験ヲ終ルトキハ學校長ヨリ其ノ成績(各科目ノ得點、同學年
生徒ノ總員及之ニ對ス
ル列序、及第又
ハ落第ヲ詳記シ)ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ七月二十日迄ニ之ヲ教育總監ニ差出スヘシ(同上)

第二十九條 陸軍補充條例第七條第二ニ該ル者初年ニ於テ採用セラレサルトキハ其ノ次年ニ限り更ニ學校長ノ保証書ヲ要セス願出ルコトヲ得其ノ出願者ハ前年該保証書ヲ差出シタル旨ヲ願書ニ記載スヘシ

見習醫官、見習藥劑官

第五十四條 一年志願者中軍醫生、藥劑生ニシテ見習醫官又ハ見習藥劑官ヲ志願スル者ハ第八條

ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ニ醫術開業免狀寫若クハ藥劑師免狀寫ヲ添ヘ六月十日迄ニ隊長ニ差出シ隊長ハ之ヲ調査シ六月十五日迄ニ師團軍醫部長ニ送付スヘシ

衛生部依託學生、同依託生徒

第五十九條 衛生部依託學生、同依託生徒ノ要員ハ陸軍省醫務局長之ヲ帝國大學總長、高等學校長若クハ府縣立醫學校長ニ通牒シ志願者ヲ召募スルモノトス

第六十條 志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ帝國大學總長若クハ當該學校長ヲ經テ陸軍省醫務局長ニ差出シ醫務局長ハ本人ノ學力品行等ヲ審査シ且最寄部隊附軍醫ノ身體検査ヲ受ケシメ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ帝國大學總長若クハ當該學校長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ依託學生若クハ依託生徒ヲ命スヘシ

前項ノ身體検査ハ醫務局長豫メ該部隊長ニ照會シ之ヲ行ハシムヘシ

第六十一條 依託學生ハ帝國大學、依託生徒ハ當該學校一般ノ規程ニ從ヒ修學セシム

第六十二條 依託學生及依託生徒修學中ハ情願ヲ以テ依託學生又ハ依託生徒ヲ辭スルヲ許サス其ノ成業ノ目送ナキ者及品行不正學業懈怠若クハ規則違犯等ノ故ヲ以テ帝國大學總長若クハ當該學校長ニ於テ退學ノ處分ヲ爲スヘキ者又ハ傷疾疾病ノ爲メ休學六箇月以上ニ至リ仍ホ治愈ノ見込ナキ者アルトキハ陸軍省醫務局長ハ帝國大學總長若クハ當該學校長ノ通知ヲ受ケ依託學生若クハ依託生徒ヲ免スヘシ

陸軍省醫務局長ハ依託學生、依託生徒ニシテ正當ノ事由ナク學年試驗ヲ受ケサル者若クハ學年試驗ニ落第シタル者又ハ其ノ性行見習醫官、見習藥劑官ト爲スニ適セスト認メタル者アルトキ

ハ依託學生若クハ依託生徒ヲ免スルコトヲ得(明治三十三年陸軍省令第二号ヲ以テ本項追加)

第六十三條 依託學生及依託生徒ニハ授業其ノ他一切ノ費用ニ充ツル爲メ左ノ金額ヲ支給ス

依託學生 月給金拾五圓

依託生徒 同 金拾圓

第六十四條 依託學生及依託生徒ノ身上其ノ他戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ本人若クハ保證人ヨリ之ヲ陸軍省醫務局長ニ届出ヘシ

第六十五條 依託學生及依託生徒其ノ課程ヲ卒ヘ卒業試験ヲ終リタルトキハ陸軍省醫務局長ハ帝國大學總長若クハ當該學校長ヨリ其ノ試験成績等ニ關スル通知ヲ受ケ之ニ見習醫官又ハ見習藥劑官ヲ命スヘシ

(備考) 獸醫學部依託學生、同依託生徒ニ關スル規定ハ衛生部依託學生等ト概同シキニ依リ略ス

○砲兵工廠軍用銃及火藥類拂下手續抄 明治三十二年八月十八日 陸軍省令第二十三號

第一條 砲兵工廠ハ本年勅令第三百六十六號及本年內務省令第四十三號ニ依リ廳府縣長官又ハ警察官署ノ免許若クハ許可ヲ得タル者火藥類ノ拂下ヲ願出ルトキハ左ニ列記スルモノニ限リ許可スルコトヲ得

一 私立中學校以上及之ト同等ノ資格アル私立學校

第二條 砲兵工廠ハ官廳公署、官公立中學校以上若クハ之ト同等ノ資格アル官公立學校ヨリ火藥

類拂渡ノ請求ヲ受クルトキハ之ニ應スルコトヲ得

第三條 砲兵工廠ハ官廳公署、官公立中學校以上若クハ之ト同等ノ資格アル官公立學校其他本年勅令第三百六十六號及本年內務省令第四十三號ニ依リ廳府縣長官又ハ警察官署ノ免許若クハ許可ヲ得タル者ヨリ軍用銃ノ拂下ヲ願出ルトキハ之ニ應スルコトヲ得

(參照)

明治三十二年勅令第三百六十六號ハ銃砲火藥類取締法施行規則、同年內務省令第四十三號ハ銃砲火藥類取締法施行細則ナリ

○國有林野法

明治三十二年三月二十二日 法律第八十五號

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組換ヲ爲スコトヲ得組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス

社寺土地ニシテ其境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ鄰接地所有者ニ通告シテ其立會ヲ

求メ施行スヘシ

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障竹木ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ
- 三 社寺土地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
- 四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ
- 五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ
- 六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ
- 七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫

約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ

三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ

四 第九條ニ依ル開墾ノ者爲ニスルトキ

五 一箇年貸付料三百圓ヲ超ユサルトキ

第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ
但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年

二 家屋、倉庫其ノ他ノ建築物ノ場合ニ於テハ三十年

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限リ國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格
以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限リ讓與スルコトヲ得

一 一段別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ

二 府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火
葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ
一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ
返還セシムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅
ス

第十七條 社寺土地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得

社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得

第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ
委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得
委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(規則公布) (明治三十二年勅令第
三百六十四號ヲ以テ)

第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クコトヲ得
法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做
ス

第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其持分ハ收益分收ノ都合ニ均シキモノトス
部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條 部分林ノ存続期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條 第十八條第二項及第三項規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會
ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ會計年度間ニ於ケル國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告
スヘシ

附 則

第二十六條 此ノ法律ハ北海道及沖繩縣ニ施行セス

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○ 訴願法

明治二十三年十月九日
法律 第百五号

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ
得

一 租税及手数料ノ賦課ニ關スル事件

二 租税滯納處分ニ關スル事件

三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四 水利及土木ニ關スル事件

五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件

六 地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ
訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者
ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ
第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ
第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タル者ハ其事件ニ付更ニ

訴願スルコトヲ得ス

第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ証據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ証明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕ス可キ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ闕クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 訴願ハ口頭審問ヲナス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條 訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條 上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附 則

第十八條 明治十五年^{十一月}第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントス
 ルトキ、此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ
 第二十條 第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタ
 ル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律執行
 ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニアラス

●愛媛縣訓令第二十号 (明治二十九年五月十九日)

郡市町村

陸軍六週間現役兵取扱手續

第一條 市町村長ハ其市町村内公立小學校ノ敎職ニ在ル者ノ内徴兵令第十三條第三項ニ該當シ陸
 軍六週間現役ニ服スヘキ者ヲ調査シ六週間現役兵名簿ヲ調製シ市長ハ毎年二月十日迄ニ當廳へ
 進達シ町村長ハ同月五日迄ニ郡長ニ差出シ郡長ハ同月十日迄ニ當廳へ進達スヘシ
 但名簿ニハ各自奉職校名及其所在地名ヲモ備考ニ記載スヘシ
 第二條 市町村長ニ於テ前條ノ名簿進達後四月盡日迄ニ敎職ニ就キタル者ノ内前條ニ該當スル者
 アルトキハ其時々名簿ヲ調製シ市ハ市長ヨリ町村ハ郡長ヲ經由シ速ニ當廳へ進達スヘシ其以後
 ニ係ルモノハ凡テ翌年同トス
 但六週間現役兵名簿ニハ本人ノ奉職スル校名及其所在地名ヲ備考欄内ニ記入スヘシ

三十年訓令
 第四十五號
 改正
 第一條

第三條 身體検査ハ毎年五月十五日迄ニ之ヲ施行ス其時日及場所ハ當廳ヨリ通達スヘシ市町村長

前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ之ヲ各自ニ達シ受驗セシムヘシ

第四條 疾病其他事故ニ依リ検査ニ出場シ難キ者アルトキハ検査當日迄ニ聯隊區司令官へ届出サ
 シムヘシ

但届書ハ居住地市町村長及郡長ヲ經由シ疾病者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付セシムヘシ

第五條 入營期限ニ際シ疾病其他ノ事故ニ依リ入營シ難キ者アルトキハ在職地市町村長及郡長ヲ
 經由シテ當廳へ届出シムヘシ

但疾病者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付セシムヘシ

郡市長前項ノ届書ヲ經由スルトキハ同時ニ其趣ヲ聯隊區司令官へ通知スヘシ

第六條 身體検査後其敎職ヲ罷メタル者アルトキ并ニ名簿差出後名簿上ニ關スル異動ヲ生シタル
 者アルトキハ市ハ市長ヨリ町村ハ郡長ヲ經由シテ速ニ當廳へ報告スヘシ

第七條 陸軍六週間現役兵條例施行細則第九條ニ該當スル者アルトキハ市ハ市長ヨリ町村ハ郡長
 ヲ經由シ其旨ヲ當廳へ報告シテ適任証書ハ市町村長之ヲ沒收シ聯隊區司令官ニ還附スヘシ

三十年訓令
 第四十五號
 第七條
 改正

學事法規索引

○布告

明治九年

社寺學校病院等へ寄附ノ土地建物等契約ナキ分一般讓渡ヲ以テ處分方

第四 五月 十八日 一三三八

明治十四年

褒賞條例

第十 六月 十七日 一二八七

明治十六年

褒賞ト金銀木杯金圓賜與方

第一 一月 十四日 一二八九

公立學校實驗用ニ供スル地所地租地方稅免除方

第十二 四月 廿一日 九一八〇

○法律

明治二十二年

徵兵令

會計法

明治二十三年

官立學校及圖書館會計法

官吏恩給法

官吏遺族扶助法

地方學事通則

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

訴願法

明治二十七年

實業教育費國庫補助法

第一月二十一日 一四〇五
第二月四十一日 一二九四

三月二十六日 一三二一
六月二十四日 一三八四

六月二十三日 一三九六
八月二十九日 八七

九月十二日 二五三
九月二十二日 四七三

十月九日 一四四一
十月十九日 一〇三八

十一月十一日 一〇三八

十二月十一日 一〇三八

明治二十九年

公立學校職員退隱料等ニ關スル規定

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補助則

明治三十二年

教育基金特別會計法

國有林野法

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
中改正

公立學校職員退隱料等ニ關スル規定中改正

明治三十三年

府縣郡市町村其他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル規定

市町村立小學校教育費國庫補助法

三月十三日 二五九
三月二十六日 一四〇

三月二十日 一三三〇
三月二十五日 一四三六

三月三十日 二五三
三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

三月三十一日 四七三

○勅令

帝國大學令	明治十九年	第三	月三	一	號日	五六九
官吏服務紀律	明治二十年	第七	月廿九	九	號日	一三七一
府縣立醫學校ノ費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スルヲ得サル規定	明治二十二年	第九	月廿八	卅	號日	一〇五〇
會計規則	明治二十三年	第四	月十六	卅	號日	一三〇〇
官立學校及圖書館會計規則	明治二十四年	第三	月廿七	卅七	號日	一三三二
東京學士會院規程	明治二十四年	第十	月廿四	卅四	號日	一一三二
判任官俸給令抄	明治二十四年	第七	月二十四	卅四	號日	一三六六

府縣立師範學校長任命及俸給令	明治二十五年	第八	月十七	七	號日	七五六
師範學校官制	明治二十五年	第十一	月十六	七	號日	七五五
市町村立小學校長及教員名稱及待遇	明治二十五年	第十一	月十六	八	號日	一九一
公立中學校高等女學校專門學校實業學校職員名稱待遇及任免	明治二十五年	第十二	月十四	卅二	號日	四二九
地方制度ヲ施行セサル地方ニ於テ教員退隱料及遺族扶助料法	明治二十五年	第十二	月十四	卅二	號日	二六五
府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法	明治二十五年	第一	月十五	卅一	號日	四八八
納金收入規則	明治二十五年	第二	月十八	八	號日	二七五
市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數算定方	明治二十五年	第四	月十二	二	號日	二七四
教員退隱料又ハ遺族扶助料法ニ關シ權利ヲ障害セラレタルモ	明治二十五年	第四	月十二	二	號日	一九三
公立學校職員等級配當	明治二十五年	第四	月十二	二	號日	八五
市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程	明治二十六年	第四	月十二	二	號日	八五
奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校職員任免ノ奏薦及宣行方	明治二十六年	第四	月十二	二	號日	四三〇
中學校高等女學校實業學校設置ノ詔町村學校組合ヲ設クルコ	明治二十六年	第五	月十七	二	號日	三八七
陸軍一年志願兵條例	明治二十六年	第七	月十九	三	號日	一四一七

文部省直轄諸學校官制

文部省直轄諸學校職員定員

東京帝國大學各分科大學講座種類及其數
各省官制通則

明治三十七年

地方官制

府縣立師範學校長特別任用令

市制町村制ヲ施行セサル地方ノ學務委員ニ關スル規定

高等學校令

公立學校職員休職ニ關スル規定

明治二十八年

東京學士會院規程補則

札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道土地貸付隨意契約方

陸軍六週間現役兵條例

明治二十九年

第八月廿六日

九二九

第八月廿七日

九三二

九月十七日

五七五

九月廿三日

一三四四

十月十二日

一三五七

十月十三日

七五八

十月十一日

二二三

十月廿三日

五二五

十月廿五日

四三一

十月廿七日

一一三三

十月廿九日

九一九

十月廿四日

一四一三

市町村立小學校授業料戰地勤務ニ因ル死傷者等ノ子弟ニ對シ徵收セサルコトヲ得ル規定

二月五日

二九三

學校衛生顧問及學校衛生顧問會議幹事設置

五月八日

一一一七

學校職員恩給審査規程

七月廿八日

二八五

陸軍補充條例抄

十二月廿七日

一四三一

明治三十年

市町村立小學校教員俸給ニ關スル規定

廿九年十二月廿九日

一九九

文部省直轄諸學校長含監特別任用令

四月二十三日

九四一

帝國大學改稱

六月十八日

五七一

京都帝國大學設置

六月十八日

五七一

東京帝國大學官制

六月十八日

五八九

京都帝國大學官制

六月十八日

五九二

帝國大學高等官官等俸給令

六月十八日

九九七

帝國大學舍監特別任用方

六月十八日

五九六

京都帝國大學理工科大學講座種類及其數

六月十八日

五八六

內國旅費規程

文部省圖書審查官任用方

師範教育令

師範學校生徒定員

明治三十一年

公立學校ニ學校醫設置方

帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則

高等教育會議規則

文部省官制改正

學位令

博士會規則

明治三十二年

中學校令改正

實業學校令

高等女學校令

第九	三月	百二十四	號	一三六七
第十	三月	百四十六	號	一三五二
第十	三月	百四十六	號	六八五
第十	三月	百四十六	號	七六九

第一	二月	二十八	號	一一一三
第五	九月	拾七	號	五七二
第六	九月	拾七	號	一一三六
第十	二月	廿五	號	一三四八
第十	二月	廿七	號	一一四五
第十	二月	廿九	號	一一四八
第十	二月	廿九	號	一一四八

第二	二月	拾六	號	三三三
第二	二月	拾六	號	八六三
第二	二月	拾六	號	三七一

文官任用令改正

文官分限令

文官懲戒令

高等師範學校附屬音樂學校及高等商業學校附屬外國語學校改稱

文部省直轄諸學校高等官等俸給令改正

公立學校職員退職料及遺族扶助料法ニ於ケル學校職員ノ資格及其在職年數算定方改正

公立學校職員退職料等ニ關スル法律施行方

北海道廳視學官俸給

視學俸給

視學官及視學特別任用令

京都帝國大學法科大學及醫科大學講座種類及其數

公立學校職員ニ文官懲戒令準用方

私立學校令

圖書館令

教育基金令

第三	六月	拾七	號	一三七三
第三	六月	拾七	號	一三七六
第三	六月	拾七	號	一三七九
第四	六月	拾七	號	一〇五三
第四	六月	拾七	號	九四〇
第五	五月	拾六	號	四八六
第五	五月	拾六	號	二六一
第六	二月	拾四	號	一一二〇
第六	二月	拾四	號	一一二〇
第六	二月	拾四	號	一一二〇
第七	三月	拾一	號	一一二三
第七	三月	拾一	號	五八一
第七	三月	拾一	號	四三二
第八	三月	拾九	號	九九
第十	四月	拾九	號	一一二〇
第十	四月	拾九	號	一一二〇
第十	四月	拾九	號	一一三三

地方官官制中郡視學ニ關スル規定施行ノ際ニ於ケル郡視學任用方
公立學校職員ト教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官トノ間ノ
轉任ニ關スル規定

十二月五日 一二二四
第四百五拾三號
十二月十九日 一九七
第四百五拾六號

明治三十三年

恩給又ハ扶助料ノ支拂請求者生存證書提出不要方

三月十四日 一四〇五
三月十三日 二一三

市町村行政ニ關スル府縣知事委任條件

三月十三日 二五二
三月十三日 四四七

市町村立小學校教員加俸令

三月十三日 二五二
三月十三日 四四七

教員免許令

三月十三日 二五二
三月十三日 四四七

教員檢定委員會官制

三月十三日 二五二
三月十三日 四四七

寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル規定

三月十三日 二五二
三月十三日 四四七

北海道廳府縣恩給顧問醫ノ醫術上事項審査ニ關スル規定

三月十三日 二五二
三月十三日 四四七

帝國大學文部省直轄諸學校及帝國圖書館資金所屬不動産一時
使用セサルモノ貸渡隨意契約方

八月十四日 九二四
三月十四日 九二四

明治三十四年

市町村ノ廢置分合等ニ依リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育
事務委託ノ存續ニ關スル件

十月二十五日 一〇七
十月二十五日 一〇七

文部省外國留學生規程

三月二十八日 一二五二
三月二十八日 一二五二

○閣令

明治十九年

公立學校職員名稱及待遇

十二月二十八日 一〇八七
十二月二十八日 一〇八七

明治二十三年

官吏恩給法施行規則

七月三日 一三八九
七月三日 一三八九

官吏遺族扶助法施行規則

七月二日 一四〇〇
七月二日 一四〇〇

明治二十七年

褒章條例取扱手續

一月一日 一二八八
一月一日 一二八八

明治二十九年

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

三月二十日 一四〇五
三月二十日 一四〇五

省令

明治十九年

學事ニ關スル廳府縣令申報方

十一月十一日 一二八五

明治二十年

教科用圖書檢定規則

五月七日 一四五

明治二十四年

府縣小學校教員恩給基金管理規則

十月九日 二七七

小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル教員退隱料及遺族扶助料
法施行上正教員准教員ノ區別

十一月十七日 二七四

師範學校附屬小學校規程

十一月十七日 七九四

明治二十五年

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

二月十一日 四七八

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則

二月十一日 二六七

師範學校ノ學科及其程度

七月十日 六八九

師範學校生徒募集規則

七月十日 七七〇

師範學校卒業生服務規則

七月十一日 七七三

師範學校設備規則

七月十一日 七五一

師範學校簡易科規程

七月十一日 七二二

明治二十六年

陸軍一年志願兵條例施行細則

七月二十二日 一四二五

北海道及沖繩縣師範學校ニ於テ諸規定施行上特別處分方
實業補習學校規程

十月二十三日 六八六

明治二十七年

市町村立小學校廢止ノ際即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セ
ラル、モノ、勤績方

二月十三日 二七六

高等師範學校規程

四月六日 七九九

第三高等學校ニ法、醫、工學部第一第二第四第五高等學校ニ醫
學部及大學豫科設置

七月十一日 五二七

高等學校修業年限及入學程度

七月十一日 五二八

第三高等學校法學部工學部及各高等學校醫學部ノ學科目及講
座數

七月十七日 五二九

徒弟學校規程

七月二十五日 八七〇

文部省版權所有圖書ノ翻刻出版ニ關スル規定
徒弟學校實業補習學業ニ體操ヲ加フルコトヲ得ル規定

八月十一日 文部省令 第二十二號 一三三七
十二月十一日 文部省令 第二十六號 八九五

明治三十年

陸軍六週間現役兵條例施行細則
第三高等學校ニ大學豫科第五高等學校ニ工學部設置
第五高等學校工學部ノ學科目及講座數
京都帝國大學工理科大學開設及其學科設置
高等師範學校生徒募集規則
高等師範學校卒業生服務規則
女子高等師範學校卒業生服務規則
師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員改正
師範學校私費生規則
女子高等師範學校生徒募集規則
女子高等師範學校規程
文部省年報ノ印刷及製本供給競爭者資格
文部省直轄學校及圖書館民事訴訟ニ付國ノ代表方

四月十五日 陸軍省令 第五九號 一四一四
四月十七日 文部省令 第七號 五二七
五月十七日 文部省令 第六號 五三〇
六月十三日 文部省令 第八號 五八七
七月十一日 文部省令 第十號 八〇九
七月二十一日 文部省令 第十一號 八一二
七月三十一日 文部省令 第十二號 八一四
十月十一日 文部省令 第十九號 七五九
十月十一日 文部省令 第二十一號 七七一
十月十一日 文部省令 第二十一號 八一〇
十月二十二日 文部省令 第二十二號 八〇二
十月二十四日 文部省令 第二十四號 一二三九
十一月二十五日 文部省令 第二十五號 一二三九
十二月二十七日 文部省令 第二十七號 八九〇

明治三十一年

學校及圖書館建築修繕工事請負競爭加入者ノ資格
師範學校私費卒業生ノ服務
學校醫職務規程
學校醫ノ資格
高等教育會議議員互選規則
京都帝國大學理工科大學學科増設
師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額改正
學校傳染病豫防及消毒方法學校規

二月三日 文部省令 第三號 一三三五
二月五日 文部省令 第四號 七七四
二月十六日 文部省令 第六號 一一一五
二月十六日 文部省令 第六號 一一一四
六月十八日 文部省令 第十三號 一一四〇
六月三十日 文部省令 第十四號 五八一
八月十三日 文部省令 第十七號 七六一
九月二十八日 文部省令 第二十號 一一一〇

明治三十二年

學位細則
工業學校規程
農業學校規程
商業學校規程
商船學校規程

一月七日 文部省令 第七號 一一四六
二月八日 文部省令 第八號 八六七
二月九日 文部省令 第九號 八七三
二月十五日 文部省令 第十五號 八七八
二月十五日 文部省令 第十五號 八八一

實業學校設置廢止規則

實業學校教員養成規程

實業教育費國庫補助法施行規則

實業教育費國庫補助金交付手續並補助ヲ受クル學校ノ豫算決算ニ關スル規定改正

公立私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許ニ關スル規定

明治三十年文部省令第十八號教科用圖書檢定規則中改正追加ハ同令施行前發行ノ教科用圖書ニ適用方

公立學校職員退隱料等ニ於ケル法律ノ施行ニ關スル規定

公立私立學校認定ニ關スル規定

改正條約實施ニ關シ學校生徒教養方

京都帝國大學法科大學及醫科大學開設並其學科設置

私立學校令施行規則

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程

砲兵工廠軍用銃及火藥類拂下手續抄

陸軍召募規則抄

三	文部省令第三十二號	八六五
三	文部省令第三十三號	一〇〇七
三	文部省令第二十號	一〇三九
三	文部省令第二十一號	一〇四〇
四	文部省令第二十五號	四六五
四	文部省令第二十六號	一五一
五	文部省令第二十八號	二六三
六	文部省令第三十四號	四九七
七	文部省令第三十五號	一二五
七	文部省令第三十八號	五八七
八	文部省令第三十九號	一〇三
八	文部省令第四十號	一三三九
八	文部省令第四十一號	一四三五
十	陸軍省令第三十五號	一四三三

明治三十三年

北海道廳及沖繩縣ノ教育基金配當金ノ使用ニ關スル規程

學生生徒身體檢査規程

第六高等學校ニ大學豫科設置

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第一項ノ學齡兒童數及就學兒童數算出方

教員檢ニ定關スル規程

高等學校大學豫科學科規程改正

小學校令施行規則

教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得ル規定

明治三十四年

中學校令施行規則

高等女學校令施行規則

文部省外國留學生規程細則

學校名稱ニ道廳府縣都市町村立私立等文字慰用方

第七高等學校造士館ニ大學豫科設置

二	文部省令第三十六號	一一三三二
三	文部省令第四十六號	一二九
四	文部省令第七號	五二七
五	文部省令第八號	四四九
六	文部省令第十號	四五三
八	文部省令第十三號	五三一
八	文部省令第十四號	一八
九	文部省令第十五號	四七一
三	三月三號	三五七
三	三月四號	三七五
四	三月九號	一一五三
四	三月十號	三八九
六	三月十七號	五二八

文部省直轄學校外國人特別入學規程
水產學校規程

十一月十一日 四五八
十二月二十八日 八九一

○達

明治十三年

公立小學校中學校專門學校設置地所無代價下渡方

一月二十九日 一七三
太政官達第六號

明治十四年

公立農學校商業學校職工學校設置地所無代價下渡方

三月十四日 九一八
太政官達第四號

府縣立學校幼稚園書籍館等設置廢止規則

一月三十一日 一〇四三
文部省達第四號

小學校教員心得

六月十八日 二〇七
文部省達第十九號

明治十五年

醫學校通則

五月二十七號 一〇四七
文部省達第四號

府縣立醫學校設置ニ關シ具申事項

七月十五日 一〇四六
文部省達第五號

藥學校通則

七月十八日 一〇五〇
文部省達第六號

醫學校及藥學校教員ノ醫學士若クハ製藥士ニ代フヘキ者ノ採用方

十二月十六日 一〇五六
文部省達第十四號

明治十六年

金銀木杯金圓賜與手續

三月二十六日 一二九〇
太政官達第十七號

公立農學校實驗用田圃ニ供スル官有地無借料使用方

十月二十五日 九一八
太政官達第四十五號

府縣立町村立學校長教員及書記ニ官吏服務規律適用方

五月二十六日 四三二
文部省達第十六號

府縣立町村立學校長教員任用ノ際本人ノ管轄廳等ニ照會方

六月一日 二〇六
文部省達第一號

明治十八年

徵兵事務條例ニ依リ生徒ニ交付スル在學證明書書式

一月十二日 三九五
文部省達第一號

徵兵事務條例ニ依リ學生生徒ニ交付スル在學證明書書式

一月十二日 九四九
文部省達第十七號

文官傷痍疾病等差例

三月十七日 一三九四
太政官達第六號

刑死者及在監死亡者ノ遺骸官公立醫學校病院ニ於テ解剖方

七月二十一日 一〇五五
內務省達甲第十一號

○訓令

明治二十年 師範學校教科用圖書教員會ニ付議方

三月廿五日 文部省訓令 第四號 七三八

明治二十一年

師範學校職員著服一定方

九月十五日 文部省訓令 第二號 七六二

東京美術學校商議委員規程

三月二十三日 文部省訓令 第三號 一〇五九

第一乃至第五高等學校商議委員規程

三月廿三日 文部省訓令 第三號 五四四

高等師範學校商議委員規程

三月廿三日 文部省訓令 第三號 八〇七

高等學校醫學部ニ於テ死體解剖施行方

六月廿一日 文部省訓令 第一號 五四一

明治二十二年

師範學校退學生徒學資償還方

十月廿五日 文部省訓令 第五號 七七二

第一高等學校長教員著服一定方

二月廿五日 文部省訓令 第五號 五四五

明治二十三年

道廳府縣立諸學校備外國人傭入解傭等報告方

八月九日 文部省訓令 第九號 一二八九

教育ニ關スル勅語謄本頒布ニ付文部大臣訓示

十月三日 文部省訓令 第十一號 卷首

明治二十四年

小學校祝日大祭日唱歌詞及樂譜ノ認可等

十月廿八日 文部省訓令 第八號 三〇一

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ノ納金收入規則地方長官ニ於テ規定方

十月九日 文部省訓令 第九號 二七七

御影竝 勅語謄本奉置方

十一月十七日 文部省訓令 第十四號 卷首

普通教育施設ニ關スル文部大臣ノ意見

十一月十七日 文部省訓令 第十五號 九三

師範學校及市町村立小學校職員ヲ文官ト同一待遇方

十一月十七日 文部省訓令 第十七號 一九五

師範學校ニ於テ支給スヘキ生徒ノ學資ニ關スル規定

十一月十七日 文部省訓令 第十七號 七七一

東京盲聾學校商議委員會規程

十一月十七日 文部省訓令 第十七號 一〇九八

高等商業學校商議委員會規程

十二月六日 文部省訓令 第十六號 九四四

東京工業學校商議委員會規程

十二月六日 文部省訓令 第十六號 九四五

明治二十五年

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ノ計算書書式

二月十一日 文部省訓令 第二號 四五〇

小學校教員退隱料及遺族扶助料證書等書式

二月十二日 文部省訓令 第二號 二八一

東京帝國大學ニ於テ度量衡副原器保管方

三月二十六日 文部省訓令 第六號 五九九

小學校教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル豫算表式

四月三日 文部省訓令 第三號 二七九

師範學校訓育教授管理等ノ諸規程ニ關シ開申方
生徒修學旅行ニ關スル手續

明治二十六年

公立學校職員ノ同官等又ハ同等級内ニ於ケル席次

女子就學上ノ注意並裁縫教員採用方

小學校修身科教授上ニ關スル注意方

檢定ヲ經タル小學校唱歌教科書中ノ歌詞及樂譜祝日大祭日唱
歌ニ供用方

實業補習學校規程ノ趣旨及施行順序等

文部省直轄各部年報一覽等印刷物差出方

大學豫科學力檢定規程

東京盲啞學校長職務規程

明治二十七年

公私商業學校中學校其他ノ學校ニ於テ商業實習用ニ供スル紙
幣ニ見紛ハシキ紙片ノ禁止

小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關スル注意方

七月十日 文部省訓令 第六號 外日 七一九
十月八日 文部省訓令 第八號 外日 九五〇

五月廿九日 文部省訓令 第九號 外日 一九五
七月十二日 文部省訓令 第十二號 外日 一二三
八月十三日 文部省訓令 第十三號 外日 一二一
十月二十日 文部省訓令 第二十號 外日 三〇二
十一月二十二日 文部省訓令 第二十二號 外日 八八六
十二月十六日 文部省訓令 第二十六號 外日 一三三九
六月十四日 文部省訓令 第四號 外日 六〇三
十月十四日 文部省訓令 第四號 外日 一〇九七

五月二十六日 文部省訓令 第五號 外日 八九五
八月二十九日 文部省訓令 第六號 外日 一一九

小學校唱歌用歌詞及樂譜ノ採用ニ關スル制限

明治二十八年

小學校教員私宅教授及贈遺受領者ニ關スル取締方

學事年報取調條項及諸表樣式

明治二十九年

高等學校大學豫科生徒入學區域

文部省所管經費仕拂命令官ノ仕拂命令發付等ニ關スル取扱手
續

明治三十年

學校清潔方法

市町村立小學校費府縣郡費補助注意方

地方視學費ノ支出計算書會計檢査院ニ送付方

陸軍補充條例第七條ニ依リ指定スヘキ學校ノ要件

京都帝國大學總長職務規程

學校職員及郡書記戶長國庫支辨ニ係ル旅費支給方

十一月二十八日 文部省訓令 第七號 外日 一五七

四月二十七日 文部省訓令 第七號 外日 二二一
十月二十六日 文部省訓令 第十六號 外日 一一六四

六月十四日 文部省訓令 第四號 外日 五四七
六月二十六日 文部省訓令 第五號 外日 一一二九

一月十一日 文部省訓令 第一號 外日 一一〇七
二月十日 文部省訓令 第二號 外日 九八
五月六日 文部省訓令 第六號 外日 一一二九
五月十一日 文部省訓令 第十一號 外日 五〇一
七月十四日 文部省訓令 第十四號 外日 五九八
十月二十日 文部省訓令 第二十號 外日 二二一

師範學校附屬小學校ノ授業料額規定方

大阪工業學校商議委員規程

小學及師範教育等ニ關シ男女區別教育方

明治三十一年

東京市小學校ノ施設完備方

札幌農學校商議委員會規程

現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ計算書提出方

會計規則第八十四條第九十一條第百條ノ場合ニ於ケル検査員及其他ノ官吏任命方

文部省所管出納官吏身元保證金納付取扱方

師範學校長旅費減額報告方

歲入歲出年度科目所管廳誤記訂正手續

文部省直轄各部年報取調條項及諸表様式

地方視學費目流用執行方

文部省直轄學校學術實地研究旅費支給ニ關スル規定

明治三十二年

文部省訓令 第十一號 七月十一日 七九五
文部省訓令 第十五號 十一月五日 九四六
文部省訓令 第十七號 十二月十七日 一七一

三月三十一日 八七

文部省訓令 第十八號 七月八日 九四三

文部省訓令 第一號 八月八日 一三三三

文部省訓令 第四號 八月四日 一三三三

文部省訓令 第五號 八月五日 一三三四

文部省訓令 第一號 八月一日 一三三四

文部省訓令 第二號 八月二日 七六三

文部省訓令 第五號 八月五日 一一二〇

文部省訓令 第九號 八月九日 一一二〇

文部省訓令 第十號 八月十日 一一二八

文部省訓令 第十四號 八月十四日 九五〇

未檢定中學校及高等女學校教科用圖書採用稟申方

師範學校中學校及高等女學校建築準則

有租地ヲ公立學校地ト爲シ又ハ其校地ニ變更ヲ生シタルトキ稅務管理局ヘ通知方

小學校教員恩給國庫給與金豫算調書書式

公立學校職員退隱料等ニ於ケル法律ノ施行ニ關シ現行訓令準用方

文部省直轄學校一覽進達方

歲出金及歲出支拂未濟繰越金支出月計對照表證明ニ關スル取扱手續

改正條約實施ニ關シ直轄學校學生生徒戒飭方

兩國大學ニ文官普通懲戒委員會設置

官立公立學校及學科課程ニ關シ法令ノ規定アル學校ニ於テ宗教上ノ教育儀式施行禁止

地方視學費ニ屬スル旅費定額減少支給方

文部省視學官視學規程

學術研究上必要ノ埋藏物ヲ發見シタルトキ東京帝國大學へ通知並其保管轉換方

私立學校設立認可ニ關シ修業年限等報告方

文部省訓令 第三號 四月三日 四一八

文部省訓令 第六號 四月四日 四二三

文部省訓令 第三號 四月三日 一七三

文部省訓令 第五號 四月五日 二七八

文部省訓令 第八號 四月八日 四九五

文部省訓令 第十號 四月十日 四九六

文部省訓令 第十二號 四月十二日 一一三六

文部省訓令 第十四號 四月十四日 一一三一

文部省訓令 第十六號 四月十六日 一一三一

文部省訓令 第十八號 四月十八日 九四八

文部省訓令 第二十號 四月二十日 五九九

文部省訓令 第二十二號 四月二十二日 一〇五

文部省訓令 第二十四號 四月二十四日 一一二八

文部省訓令 第二十六號 四月二十六日 一一二五

文部省訓令 第二十八號 四月二十八日 五八七

文部省訓令 第三十號 四月三十日 八九〇

明治三十三年

實業學校教員ノ實業學校教員養成規程第十一條ノ義務期間内ニ於ケル轉任退職ノ場合經何方
 文部省視學官ニ合議スヘキ事項
 北海道廳及沖繩縣教育基金配當金使用ニ關スル事務取扱及規則設定方
 府縣立師範學校長俸給支出計算書會計検査院へ直送方
 學校生徒喫煙禁止方
 師範學校及高等女學校ノ女生徒試驗施行及體操科休課方
 文部省分課規程改正
 北海道廳及沖繩縣普通教育費支出計算書會計検査院へ直送方
 文部省直轄諸學校長職務規程改定
 大學豫科入學試驗ノ程度等ニ關スル注意方
 高等學校大學豫科學科規程改正ノ要領並文部大臣ノ意見
 小學校令改正ノ要旨及其ノ施行上注意事項
 文部省訓令第十號北海道廳沖繩縣モ同様心得方
 地方視學費支辨物品會計取扱方

一月十日	文部省訓令第三號	九二五
二月十日	文部省訓令第二號	一一二六
二月二十日	文部省訓令第十號	一一三三
三月十日	文部省訓令第十一號	一一三三
三月二十日	文部省訓令第十二號	一一三三
三月三十日	文部省訓令第十三號	一一三三
四月十日	文部省訓令第十四號	一一三三
四月二十日	文部省訓令第十五號	一一三三
五月十日	文部省訓令第十六號	一一三三
五月二十日	文部省訓令第十七號	一一三三
六月十日	文部省訓令第十八號	一一三三
六月二十日	文部省訓令第十九號	一一三三
七月十日	文部省訓令第二十號	一一三三
七月二十日	文部省訓令第二十一號	一一三三
八月十日	文部省訓令第二十二號	一一三三
八月二十日	文部省訓令第二十三號	一一三三
九月十日	文部省訓令第二十四號	一一三三
九月二十日	文部省訓令第二十五號	一一三三
十月十日	文部省訓令第二十六號	一一三三
十月二十日	文部省訓令第二十七號	一一三三
十一月十日	文部省訓令第二十八號	一一三三
十一月二十日	文部省訓令第二十九號	一一三三
十二月十日	文部省訓令第三十號	一一三三
十二月二十日	文部省訓令第三十一號	一一三三

明治三十四年

教員檢定委員會々長職務規程
 醫學專門學校長職務規程
 師範學校本科生徒病類別患者調方

三月二十日	文部省訓令第十六號	四五
四月十日	文部省訓令第十七號	一〇六〇
四月二十日	文部省訓令第十八號	七七四

○ 内訓

明治二十八年

小學校訓導神職寺院住職等交互兼務伺出方

文部内務	兩省號外	二〇五
------	------	-----

○ 告示

明治十六年

文部省直轄學校館へ圖書物品寄附手續並運搬費支給方

八月二十日	文部省告示第十八號	一三三八
-------	-----------	------

明治十九年

山口縣高等中學校ノ管理

十一月二十日	文部省告示第二十號	五二六
--------	-----------	-----

明治二十一年
高等學校醫學部へ死體解剖願出方

九月二十四日
文部省告示第十四號
五四一

明治二十六年

小學校儀式唱歌用歌詞及樂譜

八月十三日
文部省告示第三號
三〇三

明治二十七年

工業教員タルニ適當スヘキ者ノ認定

九月十七日
文部省告示第七號
九二七

山口高等中學校ノ改稱

九月八日
文部省告示第八號
五二六

明治二十九年

東京美術學校學科中ニ圖案科新設及繪畫科中ニ西洋畫科加設

七月十一日
文部省告示第十一號
一〇五四

大阪工業學校ニ機械工藝科及化學工藝科設置

七月十一日
文部省告示第十一號
八九六

東京工業學校學科ニ電氣工科新設

七月十三日
文部省告示第十三號
八九五

明治三十一年

札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道土地貸下規程

十月十四日
文部省告示第五十四號
九一九

師範學校中學校高等女學校教科用圖書檢定調査方

十月七日
文部省告示第五十九號
四一八

檢定出願教科用圖書ノ文字印刷等ニ關スル標準

十月十四日
文部省告示第六十一號
一五二

明治三十二年

東京美術學校學科彫刻中ニ塑造ノ加設

五月一日
文部省告示第六十號
一〇五四

明治三十三年

教員無試験ニ關スル指定學校卒業生

六月十五日
文部省告示第一百五十三號
四六一

小學校教科用圖書檢定區別

八月二十五日
文部省告示第八十三號
一五五

明治三十四年

蘇格蘭大學ノ理學ニ關スル學位豫備試験ニ於ケル本邦學生代
用科目

三月二十九日
三月十九日
三月十一日
第七十一號
一一五
四六三

中學校倫理科教員免許狀ノ効力

三月十一日
第七十一號
四六三

◎ 雜類

明治二十三年

東京學士會院會則

十一月二十六日
文部大臣認可
一一三四

明治二十九年

學校衛生顧問會議規則

六月四日
文部大臣裁定
一一一八

明治三十一年

高等教育會議議事規則改正

檢定出願教科用圖書ノ文字印刷等ノ見本内閣差許方

文部大臣認可
十一月一日
一四二
官報

明治三十二年

法學博士會議事規則

公立私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許ニ關スル規定第一條ノ取扱ヲ受クル學校

文部大臣認可
三十二年八月三十一日
一五〇
在

徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度同等以上ト認定ノ公立私立學校

三十二年八月三十一日
五〇三
在

文官任用令第三條第三ニ依リ中學校ノ學科程度同等以上ト認定ノ官立公立學校

三十二年八月三十一日
五一〇
在

陸軍補充條例第七項第二ニ依リ指定ノ中學校

三十二年八月三十一日
五二六
在

東京盲聾學校規則抄

一一〇〇

大阪工業學校規則抄

九八九

東京音樂學校規則抄

一〇七六

東京美術學校規則抄

一〇六五

東京外國語學校規則抄

一〇六二

東京外國語學校別科規則抄

一〇六四

東京工業學校規則抄

九六七

東京工業學校附屬職工徒弟學校規則抄

九八五

東京工業學校附屬職工徒弟學校實業協議員規程

九四六

工業教員養成所規則抄

一〇一六

工業教員養成所附屬工業補習學校規則抄

一〇三五

高等學校規則抄

五五〇

山口高等學校商業委員ニ關スル規定

五四五

高等商業學校規則抄

九六一

高等商業學校專攻部規程抄

九六五

商業教員養成所規則抄

一〇二三

札幌農學校規則抄	九五二
女子高等師範學校規則抄	八四五
女子高等師範學校家事專修科規則抄	八五二
女子高等師範學校國語專修科規則抄	八五三
女子高等師範學校地理歷史專修科規則	八五五
女子高等師範學校撰科細則抄	八五七
女子高等師範學校保姆練習科規則抄	八五六
高等師範學校規則抄	八一九
高等師範學校研究科規則實施要目	八二八
高等師範學校臨時官費專修生ニ關スル規則抄	八三〇
高等師範學校官費專修科規則抄	八三六
高等師範學校撰科規則實施要目	八四四
高等師範學校附屬東京教育博物館規則	八五八

高等師範學校附屬東京教育博物館出品者心得抄	八六〇
東京帝國大學分科大學通則抄	六〇五
東京帝國大學各分科大學學科規程	六一二
東京帝國大學醫科大學國家醫學講習科規則	六四九
東京帝國大學理科大學臨海實驗所動物學臨海實習會規則抄	六五一
東京帝國大學農科大學農學林學獸醫學各實科規則抄	六五二
東京帝國大學農科大學農學科林學科獸醫學科乙科規則抄	六五七
東京帝國大學農科大學篤志農夫規則抄	六六二
農業教員養成所規則抄	一〇一一
東京帝國大學大學院規程	六六三
東京帝國大學大學院入學規程	六六四
京都帝國大學大學分科大學通則抄	六六五
京都帝國大學法科大學規程抄	六六八

京都帝國大學醫科大學規程及學科規程

六七〇

京都帝國大學理工科大學學科規程

六七三

京都帝國大學大學院規程抄

六八一

◎愛媛縣令

明治二十三年

私立學校心得

一月十三十一號

一〇九

明治二十五年

松山市ニ設置スヘキ尋常小學校ノ校數并ニ位置

七月二十五號

三一九

明治二十六年

師範學校卒業生服務細則

六月二十四號

七八五

明治二十七年

師範學校教科用圖書

三月二十四號

七三九

明治三十年

小學校裁縫專修科規程

五月二十七號

三二〇

明治三十一年

高等女學校補助規程

二月十八號

五一八

中學校教科用圖書

三月三十一號

四一九

明治三十二年

公立中學校職員給旅費其他諸給與ニ關スル規則

四月十八號

四三三

公立高等女學校職員俸給旅費其他諸給與ニ關スル規則

四月十九號

四三九

縣立學校基本財産設置及管理規則

四月二十二號

一三四二

學事賞與規程

四月二十五號

一二九二

尋常小學校准教員養成所規程

七月二十六號

一〇九〇

明治三十三年

師範學校生徒募集細則

一月二十六號

七八七

師範學校規則

二月二十七號

七二八

師範學校職員俸給旅費其他諸給與規則

農業學校規則

農業學校別科規程

公立實業學校職員俸給旅費其他諸給與規則

教育資金使用規則

市町村立小學校教員加俸給與細則

小學校教員檢定及免許狀ニ關スル細則

學事ニ關スル履歷書式

保母及小學校ニ類スル各種學校教員免許規則

幼稚園長保母并ニ小學校ニ類スル各種學校校長教員ノ採用解職ニ關スル規則

市町村立小學校准教員進退ニ關スル規程

市町村立小學校長正教員并ニ私立小學校長教員進退ニ關スル細則

小學校設備規程

市町村立小學校長教員俸給旅費及諸給與規則

小學校ノ學期、教授終始ノ時刻及休業日ニ關スル規程

三月二十二日 七六四

三月二十四日 八九六

三月二十六日 九〇五

四月十一日 九二六

七月十一日 三二五

七月十五日 二八九

七月十八日 二三七

八月八日 三二一

八月十一日 一〇九三

八月二十五日 一〇八五

八月二十七日 二二五

八月二十七日 二二八

八月二十七號 一七七

八月二十七號 二二〇

八月二十七號 一一〇

明治三十一年

市町村立小學校代用教員ノ俸給旅費其他諸給與規程

學齡兒童就學規則

小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及諸學校設置廢止等ニ關スル規程

師範學校附屬小學校修業年限教科目ノ増加、學級編制及授業料ニ關スル規則

中學校規則

商業學校規則

高等女學校規則

第一月十一日 二二五

第二月十三日 二九七

第七月十六日 一一一

第七月十六日 七八六

第九月十四日 三九七

第十月十三日 九〇六

第十月十三日 四〇六

愛媛縣訓令

明治二十二年

學校開校式等質素トナスヘキ様注意

明治二十三年

四月十三日 三〇七

學務擔任吏員姓名等開申方

天長節紀元節新年等ノ祝賀式準備及方法

廳下在任ノ學校職員各學校ニ於テ新年紀元節天長節祝賀式執行ニ付差支アルモノハ自今本廳ヘ參賀ニ及ハス

明治二十四年

勅語捧讀ノ件

教育ニ關スル 勅語并ニ文部大臣訓示謄本保存方

明治二十五年

物品出納

小學校ニ於テ補習科ヲ設置セントスル場合稟請方

明治二十八年

小學校生徒ノ体育ニ就テ

御影并ニ 勅語謄本取扱規程

小學校教員教務研究會準則

小學校教員私宅教授及贈遺受領者ニ關スル取締

市町村私立學校男教員執務上ノ服制

第九月二十一日 一三四三
第十月二十九日 三〇八
第十二月二十九日 二二九

第一月十九日 三一〇
第二月八日 三五二

五月十六日 五二二
九月十四日 三二六

第一月二十七日 一三七
第二月五日 三二七

第二月十四日 三三〇
五月十三日 二三〇

第三月二十一日 三三二
第六月十一日 三三二

小學校教員他校參觀其他校務ニヨリ出張ヲ要スルトキ監督官廳ノ許可ヲ受クル件

明治二十九年

陸軍六週間現役兵取扱手續

小學校入學式規程

市町村立小學校栽樹規程

市町村立小學校栽樹規程施行要項

明治三十年

學校ノ清潔

明治三十一年

市町村立小學校々旗規程

就學生徒増加及教員優遇

明治三十二年

改正條約實施ニ關シ學校生徒教養方

學級編制等ニ關スル稟請方

教員優遇

第十二月十七日 三三四

五月二十九日 一四四四
七月十五日 三一
九月九日 三三五

九月二十九日 三三六
四月二十九日 三三五

四月二十二日 一一一九

第二月十一日 三三八
第二月二十六日 三四一

七月十八日 一三八
九月十六日 一八七

第三月十八日 三三八
五月十三日 三四八

明治三十三年

學校生徒ノ喫煙ニ關シ注意

第四月三十一日 一三九

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金ニ關スル手續

第八月二十四日 二九二

小學校長教員等職務及服務細則

第十月三十一日 二三一

明治三十四年

學事年報取調條項諸表簿樣式并ニ其取扱手續

第三月十三日 一四〇

体操ノ課程準據方

第四月十五日 一四〇

郡立學校職員ニシテ公務ノ爲メ出張ヲ爲シ若クハ私事旅行ノ場合心得方

第五月十七日 一三四三

公立學校職員ヨリ差出スヘキ醫師診斷書式

第五月十九日 一三三三

小學校教授時數ノ増減半日小學校ノ設置及補習科ノ教授日等認可申請ニ關スル取扱方心得

第九月十四日 一四二

愛媛縣達

明治十三年

中小學校設置ノ地所無代價下渡方

乙二月二十一日 一八六

明治十四年

小學校教員心得

丙九月十三日 二二七

明治十五年

學校等ヲ假用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スルモノ取締方

乙一月十八日 三三三

明治十八年

公立學校生徒ニシテ多衆集合シ疎暴危險若クハ奇異ノ行爲ナキ様注意

乙二月二十五日 一三三

右ノ場合處分方

乙三月十三日 一三四

明治十九年

學事集會規則

達十二月十四日 三三四

明治二十年

小學校長及小學校首座訓導規則上疑義アル場合指示ヲ請フノ件

達三月十五日 二二八

明治二十一年

學校生徒禮式要項

達九月二十三日 一三五

○愛媛縣告示

明治二十一年 小學校教員以下受験者心得

十月二十三日 二四一

明治二十五年

小學校教員幼稚園保母盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校教員免許狀ヲ授與シタルモノハ自今其受領書ヲ差出ニ及ハス

九月二十六日 二四四

明治二十六年

某科目ヲ欠除セル小學校本科教員免許狀ヲ所持スル者ニ限リ當分該科目ノミ檢定ヲ請フヲ得

十一月二十七日 二四五

明治二十七年

高等師範學校入學志望者準備心得

十一月十七日 八一六

明治三十一年

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ退職料又ハ扶助料ヲ受クル場合ノ手續

十二月十三日 二九一

明治三十二年

高等女學校ノ校數

五月二十六日 五二〇

明治三十三年

農業學校設置

三月二十五日 一〇四二

高等女學校設置

十一月十七日 五二一

試験ヲ欠除スル學科目

十一月十四日 二四六

明治三十四年

小學校教科用圖書使用方

三月二十六日 一七〇

師範學校ヲ除ク外本縣立學校ノ名稱ハ總テ愛媛縣立ノ四字冠用方

九月十八日 三九一

明治三十五年 八月十五日印刷
同 年 八月廿一日發行

著作兼
發行者

伊豫國松山市大字三番町百四十一番戶

愛媛教育協會事務所

伊豫國松山市大字三番町百四十一番戶

本 郷 重 清

右代表者

尾道市久保町千百八十六番屋敷

大 林 幸 一

印刷者

尾道市久保町千百八十六番屋敷

合名會社尾道活版所

印刷所

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

1. The first part of the paper is devoted to a discussion of the general theory of the problem. It is shown that the problem is equivalent to a certain boundary value problem for a second order elliptic equation. The general theory of this problem is given in the next section.

2. In the third section we give a detailed proof of the existence and uniqueness of the solution of the problem. The proof is based on the method of the major and minor solutions.

3. In the fourth section we give a detailed proof of the asymptotic expansion of the solution of the problem. The proof is based on the method of the asymptotic expansion.

4. In the fifth section we give a detailed proof of the asymptotic expansion of the solution of the problem. The proof is based on the method of the asymptotic expansion.

5. In the sixth section we give a detailed proof of the asymptotic expansion of the solution of the problem. The proof is based on the method of the asymptotic expansion.

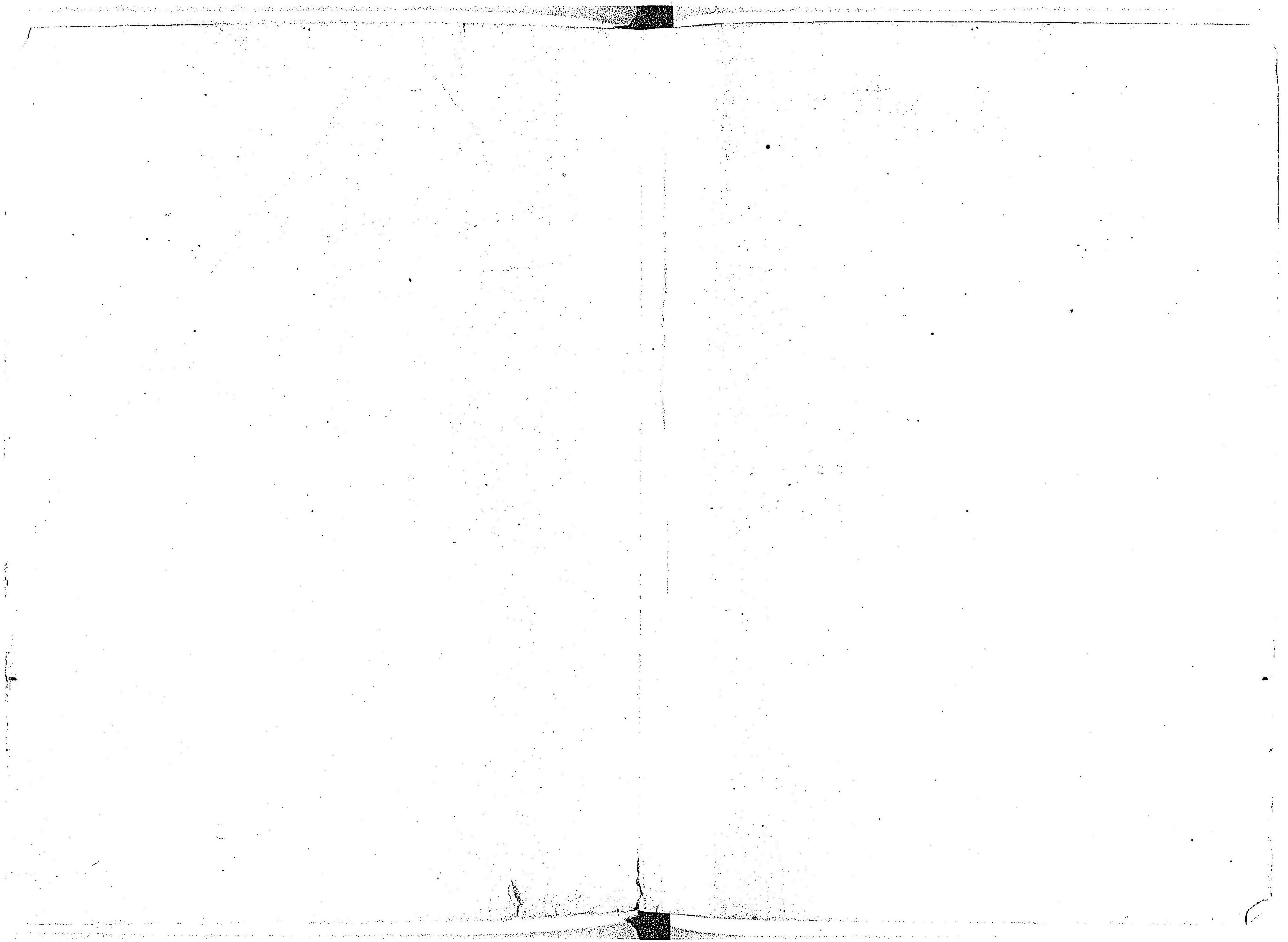
6. In the seventh section we give a detailed proof of the asymptotic expansion of the solution of the problem. The proof is based on the method of the asymptotic expansion.

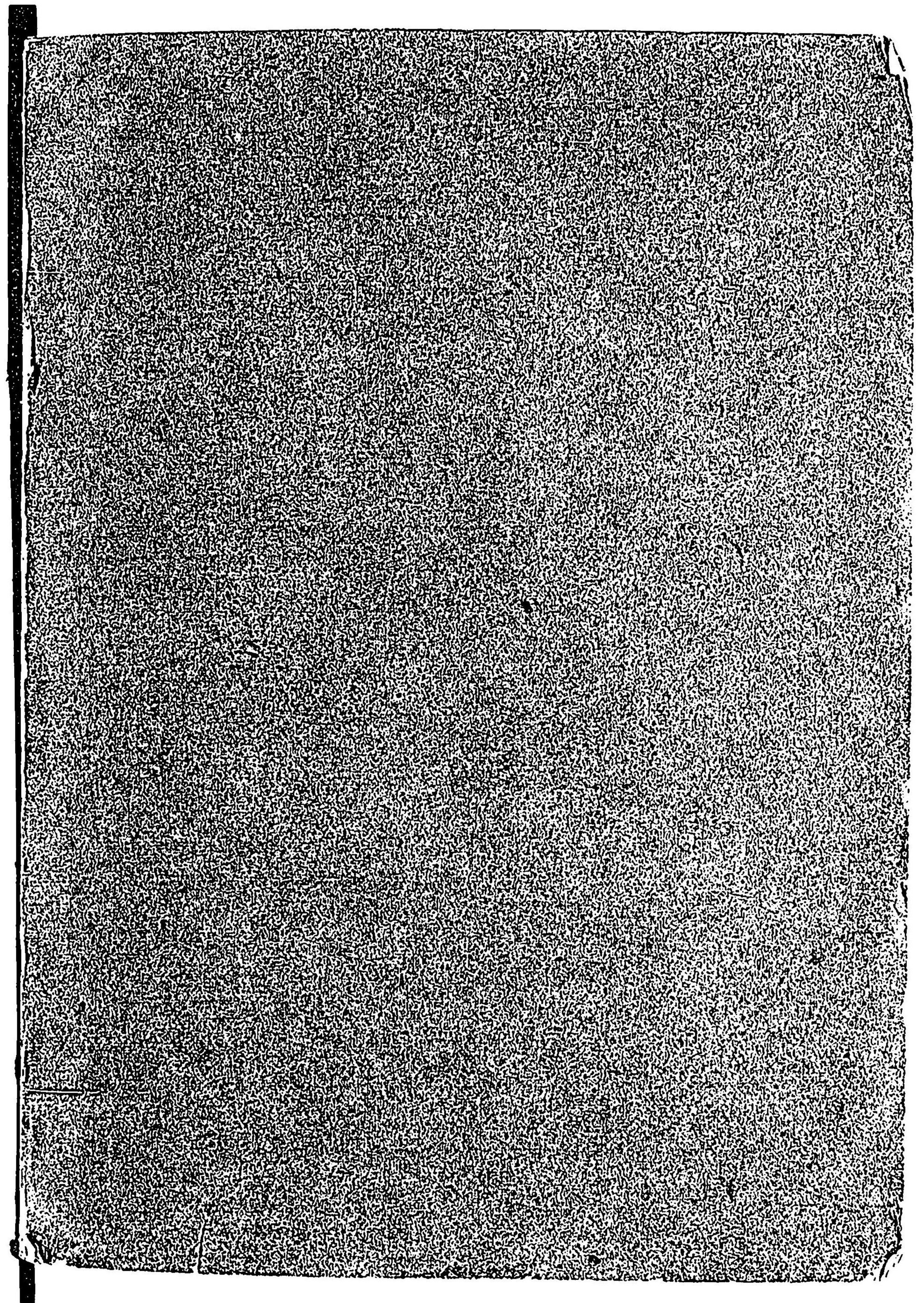
7. In the eighth section we give a detailed proof of the asymptotic expansion of the solution of the problem. The proof is based on the method of the asymptotic expansion.

8. In the ninth section we give a detailed proof of the asymptotic expansion of the solution of the problem. The proof is based on the method of the asymptotic expansion.

9. In the tenth section we give a detailed proof of the asymptotic expansion of the solution of the problem. The proof is based on the method of the asymptotic expansion.

THE UNIVERSITY OF CHICAGO





禁電子式複写

038586-000-2

CZ-1613-99-07

現行学事法規

愛媛教育協会

M35

BCA-0223

